

# 鳥取県がん検診実績報告書

平成21年 3 月

鳥 取 県  
鳥取県健康対策協議会

## はじめに

平成20年度に作成された「鳥取県がん対策推進計画」は、全体目標として国と同様に「がんによる75歳未満の死亡率20%減少」を掲げ、早期発見のため各がん検診の受診率を50%まで引き上げることとしています。

鳥取県のがん検診受診率は全国平均を上回っていますが、受診者数、受診率共にここ近年減少傾向にあり、市町村によって受診率に格差があります。概して市部の受診率が低く町村部が高い傾向にあります。

その要因として、検診費用の自己負担額が市町村によって大きな違いがあること、また、市町村によって検診種別に集団検診を実施していなかったり、医療機関での個別検診がないなど、受けられる検診に差があります。

がん治療の均てん化はがん対策基本法の大命題ですが、これは検診も同じであり、どの市町村でも同じような検診が同程度の負担で受けられるのが望ましいと考えます。

受診率50%以上達成には、ここ10年間で倍増した患者自己負担金の軽減、どこでも受診できる体制づくり、住民への啓発方法の検討が必要です。

鳥取県健康対策協議会においても、検診の質の向上や精度管理向上に努めていきたいと存じますので、行政、医師会、鳥取大学医学部の更なるご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

平成21年3月

鳥取県健康対策協議会

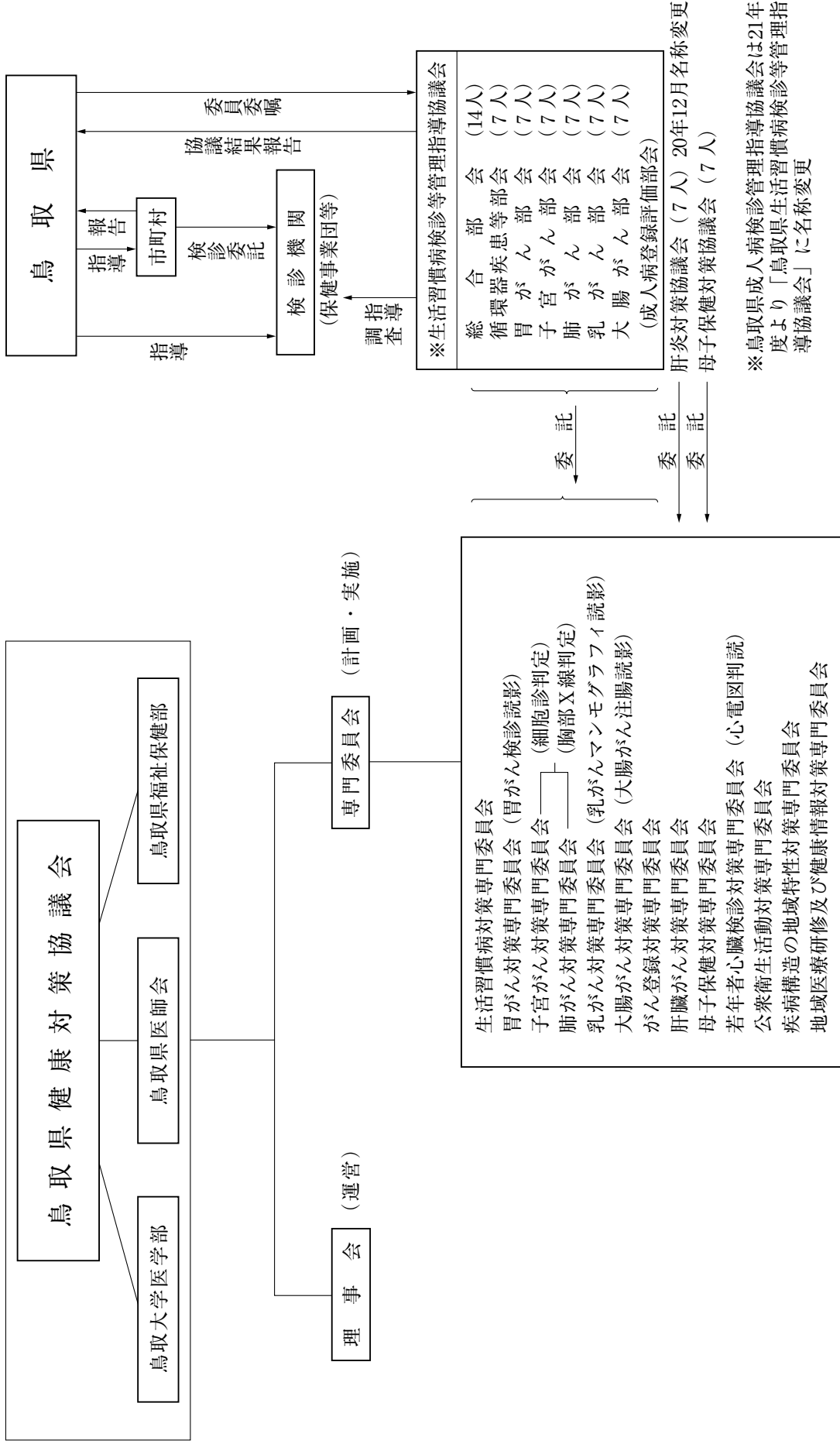
会 長 岡 本 公 男

# 目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成19年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	15
3. 肺がん検診	23
4. 乳がん検診	36
5. 大腸がん検診	45
6. 肝臓がん検診	55
7. 全国がん検診実績との比較	67
III. 平成20年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	72
2. 子宮がん検診症例研究会報告	74
3. 肺がん検診症例研究会報告	76
4. 乳がん検診症例研究会報告	78
5. 大腸がん検診症例研究会報告	80
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	82
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	86
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	87

# I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



※鳥取県成人病検診管理指導協議会は21年度より「鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会」に名称変更

## Ⅱ. 平成19年度各がん検診事業実績

## 指 標 の 解 説

1. **対象者数**：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数  
胃、肺、大腸がん検診：40歳以上  
乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。(同一人の隔年検診)  
子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。  
肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。
  - (1) 節目検診：老人保健事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
  - (2) 節目外検診：上記以外の老人保健事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能(GPT値)により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。
2. **受診者数**：検診を受診した人数
3. **受診率**：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合
4. **要精検者数**：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数
5. **要精検率**：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合
6. **精検受診者数**：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数
7. **精検受診率**：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合
8. **がん、がん疑いの人数**：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数  
子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。
9. **がん発見率**：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合
10. **陽性反応適中度**：精密検査受診者のうち、がんとされた者の割合
11. **確定癌数**：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数
12. **確定癌率**：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

# 1. 胃 が ん 検 診

## 1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は171,530人のうち、受診者数はX線検査20,507人、内視鏡検査は23,765人で合計44,272人、受診率は25.8%であった。受診者数が一番多かった平成15年度の約48,000人に比べ約4,000人の減少で、依然として減少傾向となっている。その中で、年々内視鏡検査が増え、平成19年度は初めて実施率が50%を越え、53.7%となった。

全国平均受診率11.8%に比べると鳥取県は非常に良い成績であり、全国で2位と高い。

検査の結果、胃がんであった者は166人発見され（X線検査35人、内視鏡検査131人）、がん発見率は0.37%であった。全国平均がん発見率0.15%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.17%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.55%で約3倍も高い。

確定調査の結果、確定癌は162例、発見癌率は0.37%で、前年度より4人減少した。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は20,507人で、受診率は12.0%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は1,689人、要精検率は8.2%。このうち、精密検査を受診したのは1,337人、精検受診率は79.2%であった。車検診の要精検率6.6%、東部4.4%と低かった。医療機関検診は11.9%で、依然として中部が26.7%と高い。

精検結果は、胃がんであった者は35人で、胃がん発見率は0.17%であった。

- (2) 内視鏡検査は、14市町村で実施され、受診者数は23,765人で、検査結果は胃がんであった者は131人が発見され、発見率は0.55%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数2,445人で、組織診実施率10.3%で、市町村で格差がある。

## 2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成19年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは162例（一次検査がX線検査：車検診17例、施設検診19例、一次検査内視鏡検査：126例）であった。

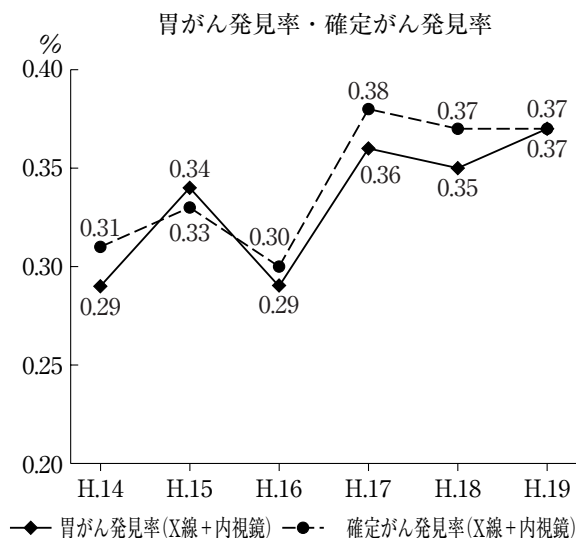
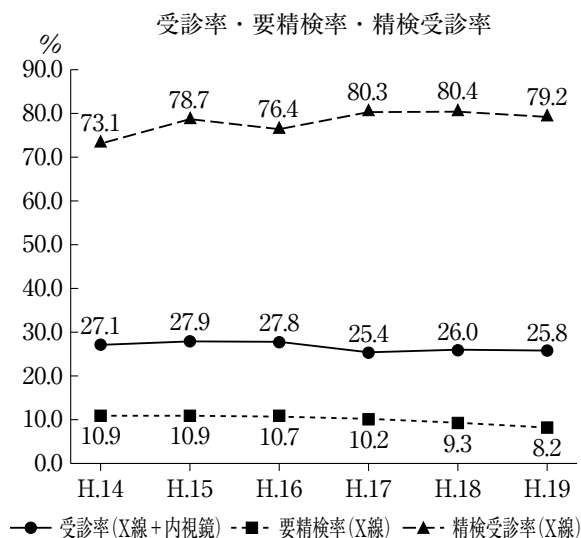
- (1) 早期癌は123例、進行癌は39例であった。早期癌率は75.9%で、東部79.8%、中部88.9%、西部69.6%であった。
- (2) 切除例は150例で、そのうち内視鏡切除が54例で全体の1/3を占め、増えている。
- (3) 性・年齢別では、男性105例、女性57例であった。男女とも高齢になるにしたがい、がん発見率が高まり75歳以上の高齢者のがんが全体の46.4%を占めていた。また、90歳代の切除例が3例あった。40歳代、50歳代の女性からがんが3例ずつ見つかり、若年層の受診勧奨が必要と思われる。
- (4) 早期癌では「ⅡC」が50.4%で大半を占めている。進行癌では「2」、「3」が56.4%を占めている。全国集計と同じ傾向であった。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が118例で、そのうちmが78例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が41.1%であった。車検診では38.5%、施設検診では22.2%、内視鏡検診では44.3%で、内視鏡検診でより小さい癌が多く見つかり、
- (7) 早期癌の占拠部位は、内視鏡検査ではX線検査では見つかりにくい前壁が多く発見されている。
- (8) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部9件、西部8件であった。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		14 年 度			15 年 度			16 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			169,754			171,941			167,900
	受 診 者 数(人) B	32,738	13,295	46,033	31,587	16,459	48,046	28,963	17,666	46,629
	受 診 率(%) C = B/A	19.3	7.8	27.1	18.4	9.6	27.9	17.3	10.5	27.8
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	29,175			28,153			25,859		
	要 精 検 者 数(人) E	3,563			3,434			3,104		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.9			10.9			10.7		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,604			2,702			2,372		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	73.1			78.7			76.4		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	43(8)	91(19)	134(27)	70(4)	94(20)	164(24)	51(7)	85(20)	136(27)
	胃 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.13	0.68	0.29	0.22	0.57	0.34	0.18	0.48	0.29
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	1.7			2.6			2.2		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	53	89	142	69	89	158	51	87	138
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.16	0.67	0.31	0.22	0.54	0.33	0.18	0.49	0.30

区 分		17 年 度			18 年 度			19 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			177,428			174,051			171,530
	受 診 者 数(人) B	25,784	19,339	45,123	23,247	21,945	45,192	20,507	23,765	44,272
	受 診 率(%) C = B/A	14.5	10.9	25.4	13.4	12.6	26.0	12.0	13.9	25.8
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	23,156			21,085			18,818		
	要 精 検 者 数(人) E	2,628			2,162			1,689		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.2			9.3			8.2		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,109			1,738			1,337		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	80.3			80.4			79.2		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	53(7)	109(38)	162(45)	46(11)	112(32)	158(43)	35(6)	131(31)	166(37)
	胃 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.21	0.56	0.36	0.20	0.51	0.35	0.17	0.55	0.37
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.5			2.6			2.6		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	53	117	170	49	117	166	36	126	162
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.21	0.60	0.38	0.21	0.53	0.37	0.18	0.53	0.37

- ※ 1 精密検査結果欄の( )内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上





## (2) 平成19年度胃がんX線検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数 (人)		受診率 (%)		一次検診結果				要精検率 (%)	
	a		b		c = b/a		要精検者数 d		異常認めず		e = d/b	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	3,241	5,946	180	561	5.6	9.4	21	33	159	528	11.7	5.9
45～49歳	3,901	7,603	247	691	6.3	9.1	24	33	223	658	9.7	4.8
50～54歳	5,579	8,403	390	978	7.0	11.6	42	68	348	910	10.8	7.0
55～59歳	8,131	11,289	723	1,689	8.9	15.0	81	111	642	1,578	11.2	6.6
60～64歳	9,410	12,565	1,045	1,973	11.1	15.7	108	135	937	1,838	10.3	6.8
65～69歳	9,406	13,274	1,360	2,208	14.5	16.6	139	149	1,221	2,059	10.2	6.7
70～74歳	10,354	14,467	1,526	2,483	14.7	17.2	140	193	1,386	2,290	9.2	7.8
75～79歳	8,764	13,522	1,166	1,668	13.3	12.3	130	140	1,036	1,528	11.1	8.4
80歳以上	8,407	17,268	724	895	8.6	5.2	62	80	662	815	8.6	8.9
計	67,193	104,337	7,361	13,146	11.0	12.6	747	942	6,614	12,204	10.1	7.2
合 計	171,530		20,507		12.0		1,689		18,818		8.2	

### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異 常 認 め ず		その他の 疾 病		胃がん 疑 い		胃がん h		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	14	25	66.7	75.8	72.2	3	11	11	14	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	17	27	70.8	81.8	77.2	2	12	15	14	0	0	0	1	0.000	0.145	0.107	0.0	3.7	2.3
50～54歳	31	46	73.8	67.6	70.0	13	15	18	30	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	54	89	66.7	80.2	74.5	15	25	39	64	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	77	110	71.3	81.5	77.0	14	33	58	77	1	0	4	0	0.383	0.000	0.133	5.2	0.0	2.1
65～69歳	107	119	77.0	79.9	78.5	28	36	77	80	0	1	2	2	0.147	0.091	0.112	1.9	1.7	1.8
70～74歳	108	163	77.1	84.5	81.4	30	55	71	105	0	0	7	3	0.459	0.121	0.249	6.5	1.8	3.7
75～79歳	106	120	81.5	85.7	83.7	15	29	83	88	1	1	7	2	0.600	0.120	0.318	6.6	1.7	4.0
80歳以上	54	70	87.1	87.5	87.3	11	23	40	42	0	1	3	4	0.414	0.447	0.432	5.6	5.7	5.6
計	568	769	76.0	81.6	79.2	131	239	412	514	2	4	23	12	0.312	0.091	0.171	4.0	1.6	2.6
合 計	1,337		79.2			370		926		6		35		0.171			2.6		

### 3) 検診機関別

#### a. 一次検診結果

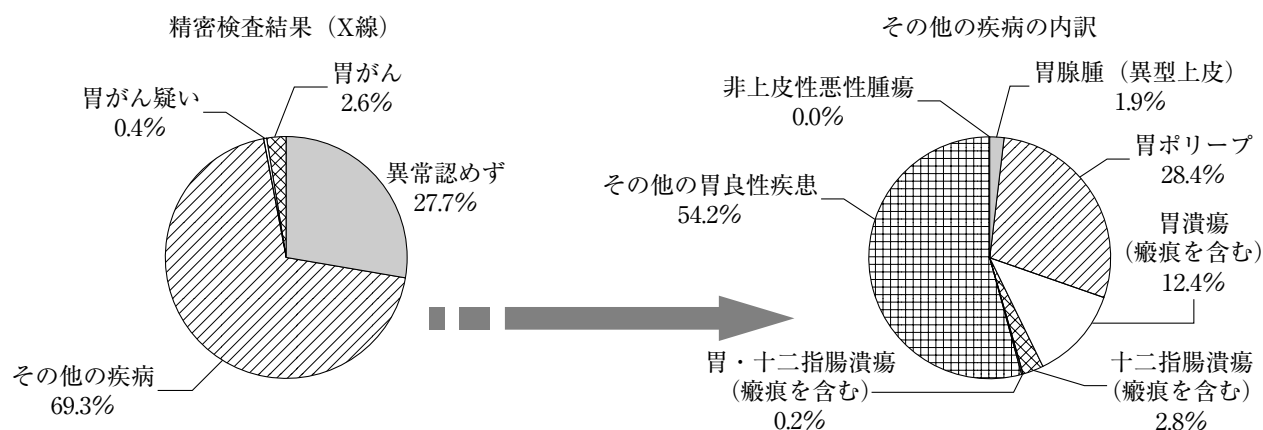
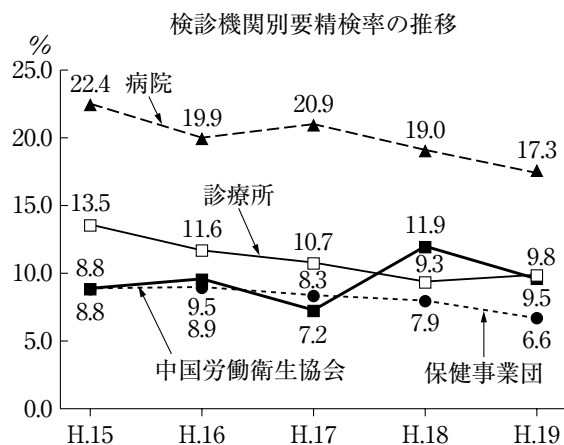
一次検診機関	一次検診 受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	5,069	8,820	432	479	4,637	8,341	8.5	5.4	6.6
中国労働衛生協会	156	182	17	15	139	167	10.9	8.2	9.5
病 院	497	1,237	110	190	387	1,047	22.1	15.4	17.3
診 療 所	1,639	2,907	188	258	1,451	2,649	11.5	8.9	9.8
計	7,361	13,146	747	942	6,614	12,204	10.1	7.2	8.2
合 計	20,507		1,689		18,818		8.2		

b. 精密検診結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	333	397	77.1	82.9	80.1	79	123	240	269	1	3	13	2	0.256	0.023	0.108	3.9	0.5	2.1
中国労働衛生協会	16	15	94.1	100.0	96.9	5	6	10	8	0	0	1	1	0.641	0.549	0.592	6.3	6.7	6.5
<b>集団検診小計</b>	<b>349</b>	<b>412</b>	<b>77.7</b>	<b>83.4</b>	<b>80.7</b>	<b>84</b>	<b>129</b>	<b>250</b>	<b>277</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>14</b>	<b>3</b>	<b>0.268</b>	<b>0.033</b>	<b>0.119</b>	<b>4.0</b>	<b>0.7</b>	<b>2.2</b>
病院	79	144	71.8	75.8	74.3	23	51	54	92	0	0	2	1	0.402	0.081	0.173	2.5	0.7	1.3
診療所	140	213	74.5	82.6	79.1	24	59	108	145	1	1	7	8	0.427	0.275	0.330	5.0	3.8	4.2
<b>医療機関検診小計</b>	<b>219</b>	<b>357</b>	<b>73.5</b>	<b>79.7</b>	<b>77.2</b>	<b>47</b>	<b>110</b>	<b>162</b>	<b>237</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>9</b>	<b>0.421</b>	<b>0.217</b>	<b>0.287</b>	<b>4.1</b>	<b>2.5</b>	<b>3.1</b>
計	568	769	76.0	81.6	79.2	131	239	412	514	2	4	23	12	0.312	0.091	0.171	4.0	1.6	2.6
合計	1,337		79.2			370		926		6		35		0.171			2.6		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
保健事業団	8.8	8.9	8.3	7.9	6.6
中国労働衛生協会	8.8	9.5	7.2	11.9	9.5
<b>集団検診小計</b>	<b>8.8</b>	<b>8.9</b>	<b>8.3</b>	<b>8.0</b>	<b>6.6</b>
病院	22.4	19.9	20.9	19.0	17.3
診療所	13.5	11.6	10.7	9.3	9.8
<b>医療機関検診小計</b>	<b>14.8</b>	<b>14.1</b>	<b>13.3</b>	<b>11.8</b>	<b>11.9</b>
合計	10.9	10.7	10.2	9.3	8.2



4) 平成19年度鳥取県胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				検査結果別人員								
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	施設検診	車検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
				D = B + C	E = D / A	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	Q = O / D	R = O / J		
鳥取市	54,000	1,956	3,290	5,246	9.7	77	395	472	9.0	382	80.9	94	273	1	14	288	0.267	3.7		
米子市	45,750	640	2,165	2,805	6.1	42	241	283	10.1	213	75.3	62	146	0	5	151	0.178	2.3		
倉吉市	12,233	1,321	1,01	1,422	11.6	117	26	143	10.1	107	74.8	36	68	0	3	71	0.211	2.8		
境港市	11,714	47	373	420	3.6	5	28	33	7.9	31	93.9	10	20	1	0	21	0.000	0.0		
岩美町	2,305	727	9	736	31.9	26	2	28	3.8	22	78.6	5	15	0	2	17	0.272	9.1		
八頭町	8,143	1,644	40	1,684	20.7	73	3	76	4.5	63	82.9	10	53	0	0	53	0.000	0.0		
若桜町	1,524	396	0	396	26.0	27	0	27	6.8	24	88.9	5	18	0	1	19	0.253	4.2		
智頭町	2,395	531	215	746	31.1	27	41	68	9.1	57	83.8	12	45	0	0	45	0.000	0.0		
湯梨浜町	3,209	892	0	892	27.8	69	0	69	7.7	68	98.6	20	47	0	1	48	0.112	1.5		
三朝町	1,234	527	0	527	42.7	48	0	48	9.1	41	85.4	10	30	1	0	31	0.000	0.0		
北栄町	3,809	942	9	951	25.0	76	3	79	8.3	67	84.8	19	45	1	2	48	0.210	3.0		
琴浦町	4,930	1,332	6	1,338	27.1	98	2	100	7.5	79	79.0	30	48	1	0	49	0.000	0.0		
南部町	2,559	457	71	528	20.6	24	5	29	5.5	25	86.2	5	20	0	0	20	0.000	0.0		
伯耆町	7,814	872	1	873	11.2	72	0	72	8.2	34	47.2	17	12	1	4	17	0.458	11.8		
日吉津村	1,570	201	0	201	12.8	20	0	20	10.0	9	45.0	0	9	0	0	9	0.000	0.0		
大山町	4,794	814	0	814	17.0	80	0	80	9.8	62	77.5	19	42	0	1	43	0.123	1.6		
日南町	1,500	289	0	289	19.3	12	0	12	4.2	10	83.3	5	5	0	0	5	0.000	0.0		
日野町	1,336	323	0	323	24.2	19	0	19	5.9	13	68.4	0	13	0	0	13	0.000	0.0		
江府町	711	316	0	316	44.4	31	0	31	9.8	30	96.8	11	17	0	2	19	0.633	6.7		
合計	171,530	14,227	6,280	20,507	12.0	943	746	1,689	8.2	1,337	79.2	370	926	6	35	967	0.171	2.6		
東部	68,367	5,254	3,554	8,808	12.9	230	441	671	7.6	548	81.7	126	404	1	17	422	0.193	3.1		
中部	25,415	5,014	116	5,130	20.2	408	31	439	8.6	362	82.5	115	238	3	6	247	0.117	1.7		
西部	77,748	3,959	2,610	6,569	8.4	305	274	579	8.8	427	73.7	129	284	2	12	298	0.183	2.8		

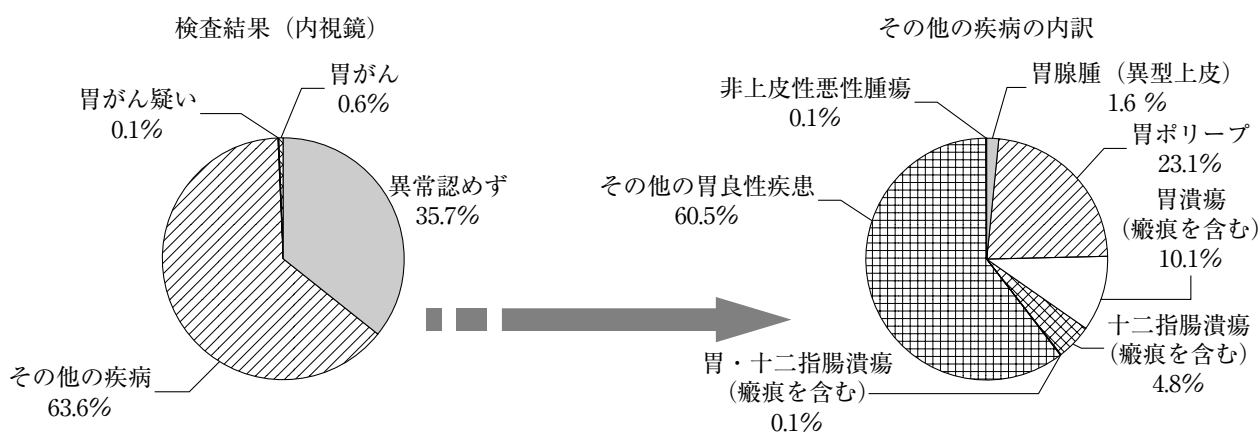
### (3) 平成19年度胃がん内視鏡検診

#### 1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	180	426	70	198	110	227	0	0	0	1	0.000	0.235	0.165
45～49歳	202	543	75	233	126	309	0	0	1	1	0.495	0.184	0.268
50～54歳	313	777	93	292	220	484	0	0	0	1	0.000	0.129	0.092
55～59歳	564	1,390	171	516	392	871	1	0	0	3	0.000	0.216	0.154
60～64歳	1,165	2,086	359	786	789	1,294	4	1	13	5	1.116	0.240	0.554
65～69歳	1,646	2,579	514	981	1,116	1,587	3	2	13	9	0.790	0.349	0.521
70～74歳	1,941	2,932	630	1,086	1,296	1,834	2	2	13	10	0.670	0.341	0.472
75～79歳	1,636	2,418	523	941	1,089	1,466	2	6	22	5	1.345	0.207	0.666
80歳以上	1,183	1,784	376	640	783	1,126	2	6	22	12	1.860	0.673	1.146
計	8,830	14,935	2,811	5,673	5,921	9,198	14	17	84	47	0.951	0.315	0.551
合 計	23,765		8,484		15,119		31		131		0.551		

#### 2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	2,483	3,873	511	1,035	1,937	2,820	8	7	27	11	1.087	0.284	0.598
診療所	6,347	11,062	2,300	4,638	3,984	6,378	6	10	57	36	0.898	0.325	0.534
計	8,830	14,935	2,811	5,673	5,921	9,198	14	17	84	47	0.951	0.315	0.551
合計	23,765		8,484		15,119		31		131		0.551		



3) 平成19年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検 査 結 果 別 人 員								
	受診者数 (人)	組織診 実施者数	組織診 実施率 (%)	異 常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見率 (%)
	A	B	C = B/A	D	E	F	G	H = E+F+G	I = G/A
鳥取市	9,316	1,368	14.7	1,688	7,551	10	67	7,628	0.719
米子市	9,409	658	7.0	4,394	4,970	3	42	5,015	0.446
倉吉市	741	54	7.3	436	303	1	1	305	0.135
境港市	2,065	176	8.5	998	1,054	2	11	1,067	0.533
岩美町	236	16	6.8	123	113	0	0	113	0.000
八頭町	92	5	5.4	38	53	1	0	54	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	244	23	9.4	103	140	0	1	141	0.410
湯梨浜町	201	16	8.0	60	140	0	1	141	0.498
三朝町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北栄町	199	5	2.5	76	123	0	0	123	0.000
琴浦町	310	27	8.7	146	162	1	1	164	0.323
南部町	514	70	13.6	250	249	11	4	264	0.778
伯耆町	195	0	0.0	74	119	1	1	121	0.513
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	86	15	17.4	11	73	1	1	75	1.163
江府町	157	12	7.6	87	69	0	1	70	0.637
合 計	23,765	2,445	10.3	8,484	15,119	31	131	15,281	0.551
東 部	9,888	1,412	14.3	1,952	7,857	11	68	7,936	0.688
中 部	1,451	102	7.0	718	728	2	3	733	0.207
西 部	12,426	931	7.5	5,814	6,534	18	60	6,612	0.483

(4) 平成19年度胃がん検診受診状況（X線十内視鏡）

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=I/D
鳥取市	54,000	5,246	9,316	14,562	27.0	1,782	7,824	11	81	7,916	0.556
米子市	45,750	2,805	9,409	12,214	26.7	4,456	5,116	3	47	5,166	0.385
倉吉市	12,233	1,422	741	2,163	17.7	472	371	1	4	376	0.185
境港市	11,714	420	2,065	2,485	21.2	1,008	1,074	3	11	1,088	0.443
岩美町	2,305	736	236	972	42.2	128	128	0	2	130	0.206
八頭町	8,143	1,684	92	1,776	21.8	48	106	1	0	107	0.000
若桜町	1,524	396	0	396	26.0	5	18	0	1	19	0.253
智頭町	2,395	746	244	990	41.3	115	185	0	1	186	0.101
湯梨浜町	3,209	892	201	1,093	34.1	80	187	0	2	189	0.183
三朝町	1,234	527	0	527	42.7	10	30	1	0	31	0.000
北栄町	3,809	951	199	1,150	30.2	95	168	1	2	171	0.174
琴浦町	4,930	1,338	310	1,648	33.4	176	210	2	1	213	0.061
南部町	2,559	528	514	1,042	40.7	255	269	11	4	284	0.384
伯耆町	7,814	873	195	1,068	13.7	91	131	2	5	138	0.468
日吉津村	1,570	201	0	201	12.8	0	9	0	0	9	0.000
大山町	4,794	814	0	814	17.0	19	42	0	1	43	0.123
日南町	1,500	289	0	289	19.3	5	5	0	0	5	0.000
日野町	1,336	323	86	409	30.6	11	86	1	1	88	0.244
江府町	711	316	157	473	66.5	98	86	0	3	89	0.634
合計	171,530	20,507	23,765	44,272	25.8	8,854	16,045	37	166	16,248	0.375
東部	68,367	8,808	9,888	18,696	27.3	2,078	8,261	12	85	8,358	0.455
中部	25,415	5,130	1,451	6,581	25.9	833	966	5	9	980	0.137
西部	77,748	6,569	12,426	18,995	24.4	5,943	6,818	20	72	6,910	0.379

(5) 平成19年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	5	13	66	5	1	3	7	5	57	162
癌 発 見 率 %	0.095	0.366	0.667	0.100	0.862	0.207	0.177	0.192	0.459	
	84 0.449			9 0.137			69 0.363			0.366
早 期 癌 数	3	8	56	4	1	3	4	2	42	123
早 期 癌 率 %		67 79.8			8 88.9			48 69.6		
進 行 癌 数	2	5	10	1	0	0	3	3	15	39
切 除 例	4	13	62	5	1	3	5	5	52	150
内 視 鏡 切 除 例	2	6	22	1	0	3	0	0	20	54
非 切 除 例	1	0	4	0	0	0	2	0	5	12

手術拒否：7 手術不能：5

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	1	0	32	47	25	105
女	3	3	16	19	16	57

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	5	1	0	0	1	0	2	9	7.3%
IIa	1	2	11	0	1	0	0	0	10	25	20.3%
IIc	0	4	26	1	0	2	2	2	25	62	50.4%
IIc+III	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	2.4%
IIa+IIc	1	1	5	1	0	1	0	0	4	13	10.6%
そ の 他	0	1	8	1	0	0	1	0	0	11	8.9%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	3	8	56	4	1	3	4	2	42	123	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.6%
2	0	1	4	0	0	0	2	1	5	13	33.3%
3	1	1	1	1	0	0	0	1	4	9	23.1%
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
5	0	3	5	0	0	0	0	1	2	11	28.2%
不 明	1	0	0	0	0	0	1	0	3	5	12.8%
計	2	5	10	1	0	0	3	3	15	39	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1	3	8	53	4	1	3	3	2	41	118
m	2	7	30	4	1	2	1	1	30	78
t2	0	2	6	1	0	0	0	2	8	19
t3	1	3	3	0	0	0	2	1	2	12
t4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	4	13	62	5	1	3	5	5	52	150
不明	1	0	4	0	0	0	2	0	5	12

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)	21 ～ 50	51 ～	計	不明
車 検 診	2	3	5 38.5%	6	2	13	1
施 設 検 診	1	3	4 22.2%	11	3	18	0
内 視 鏡 検 診	14	37	51 44.3%	52	12	115	3
計	17	43	60 41.1%	69	17	146	4

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	0	0	17
M	6	7	36
L	4	4	46
全 体	0	0	2
計	10	11	101
不 明	1	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	3	2	34
大 弯	1	3	11
前 壁	1	3	34
後 壁	5	3	22
全 周	0	0	0
計	10	11	101
不 明	1	0	0

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	1	1	5
M	2	4	8
L	1	3	12
全 体	0	0	0
計	4	8	25
不 明	2	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	1	4	12
大 弯	2	1	3
前 壁	0	2	4
後 壁	1	1	2
全 周	0	0	3
計	4	8	24
不 明	2	0	1



表 8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計	
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線	内視鏡
I a	3	8	53	5	1	3	3	2	42	11	11	98	22(64.7%)	98(83.8%)
I b	0	3	3	0	0	0	1	0	4	1	3	7	4	7
II	1	0	2	0	0	0	1	2	1	2	2	3	4	3
III a	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	3
III b	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	1	2
IV	0	1	2	0	0	0	1	0	2	1	1	4	2	4
計	4	13	62	5	1	3	6	5	52	15	19	117	34	117
不明	1	0	4	0	0	0	1	0	5	2	0	9	2	9

表 9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	前年度検診結果			備考
									検診方式	一次検診結果	精密検査結果	
東部	施	69	男	5	t2 (mp)	tub2	24×18	M 前壁	施設・X線	異常なし		
		70	男	5	t3 (se)	por2	46×40	U 後壁小弯	施設・X線	異常なし		
		72	女	3	t3 (se)	por2	25×19	L 大弯	施設・X線	異常なし		
		64	男	5	t2 (mp)	tub2	60×57	L 小弯	施設・X線	食道がん術後 (精検不要)		
	内	80	女	2	t3 (se)	tub2	35×35	M 後壁	施設・X線	要精検	未受診	
		75	男	2	t2 (mp)	por1	30×30	U 前壁	施設・内視鏡	胃ポリープ (要検査)		
		67	女	5	t2 (ss)	tub1	35×35	M 後壁小弯	施設・内視鏡	胃ポリープ (要治療)		
	47	女	5	t2 (mp)	muc	10×8	M 小弯	施設・内視鏡	胃潰瘍活動性 (要治療)			
	75	男	2	t2 (mp)	por2	50×24	L 全周	施設・内視鏡	胃潰瘍瘢痕性 (精検不要)			
西部	車	76	男	2	t2 (ss)	tub2	65×35	L 後壁大弯	車・X線	異常なし		
		75	女	2	t3 (se)	por1	不明	MU 後壁	車・X線	異常なし		
	施	65	女	5	t2 (mp)	por2	45×36	M 後壁	施設・X線	精検不要		
		82	女	2	t2 (mp)	tub2	40×35	L 全周	施設・X線	異常なし		
		89	男	3	t3 (se)	tub2	65×46	ML 小弯	施設・X線	異常なし		
	内	62	男	5	t4 (si)	sig	不明	U 大弯	施設・内視鏡	精検不要		
		74	男	2	t3 (se)	muc	60×45	U 全周	車・X線	異常なし		
83		男	3	t2 (mp)	por1	15×15	M 小弯	車・X線	異常なし			

## 2. 子宮がん検診

### 1. 子宮がん検診実績

対象者数(20歳以上の女性のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数)は130,796人で、このうち受診者数は24,450人(「頸部のみ」23,718人、「頸部+体部」732人)で受診率は18.7%であった。平成18年度に比べ対象者数が約2,400千人減少したが、受診者数、受診率は僅かながら増加した。

一次検診の結果、要請検者数は89人、要請検率は0.36%。そのうち、精密検査受診者は78人で、精検受診率は87.6%であった。精密検査結果：がん5人、がん発見率0.02%。陽性反応の中度は6.4%であった。異形成は35人(軽度29人、高度6人)であった。平成18年度に比べ、がんは11人減少し、がん発見率は0.05ポイント減少となった。20～29歳は依然として受診率が低い状況であるが、異形成が4人発見されており、若年層の掘り起こしは非常に重要である。また、30～49歳の受診率は年々高くなってきており、検診の普及啓発の結果が少しずつ表れてきていると思われる。

市町村別受診状況では、11.5%～48.1%とかなりの差がある。

### 2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者24,450人中、体部がん検診対象者数は732人で、一次検診会場での受診者は641人、また一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者が24人、受診者の合計は665人で、受診率は90.9%であった。

一次検診の結果、要精検となった者は17人、要精検率2.65%で、精密検査受診者数17人、精検受診率100%であった。

精検の結果、子宮体部がんは発見されなかったが、子宮内膜増殖症は7人発見されている。

### 3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

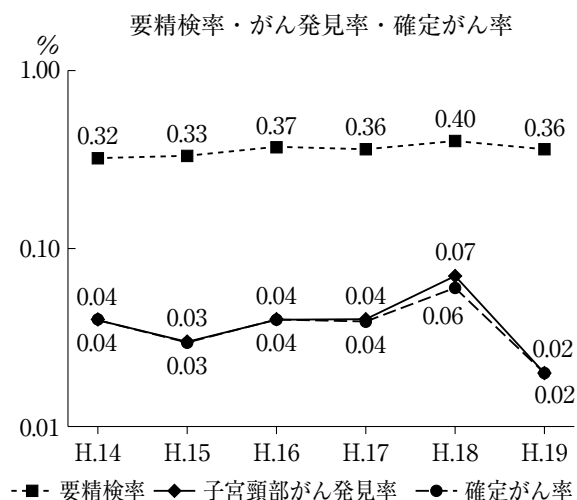
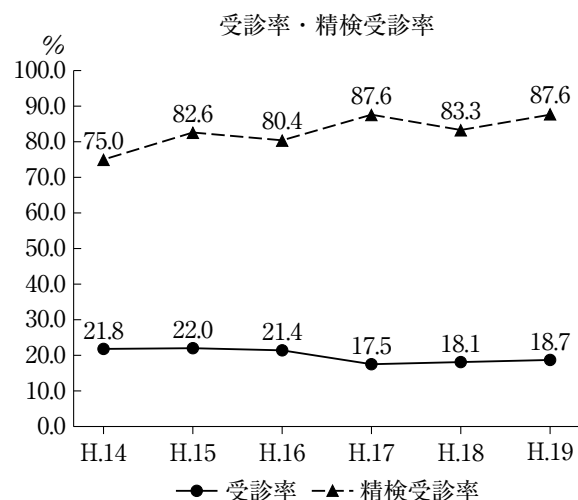
平成19年度は子宮頸部癌4名で、I a期が2例、I b期以上が2例であった。上皮癌は平成18年度12例あったが、今年度は0例だった。異形成は35例だった。なお、I b期以上2例の検診歴は、いずれも初回受診であった。

また、子宮体部癌は1例であった。子宮内膜増殖症は10例だった。

## (1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	125,040	125,191	122,868	139,203	133,250	130,796
	受 診 者 数(人) B	27,197	27,483	26,333	24,416	24,150	24,450
	受 診 率(%) C = B / A	21.8	22.0	21.4	17.5	18.1	18.7
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	27,109	27,391	26,236	24,327	24,054	24,361
	要 精 検 者 数(人) E	88	92	97	89	96	89
	要 精 検 率(%) F = E / B	0.32	0.33	0.37	0.36	0.40	0.36
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	66	76	78	78	80	78
	精 検 受 診 率(%) H = G / E	75.0	82.6	80.4	87.6	83.3	87.6
精 密 検 査 結 果	子 宮 がん の 者(人) I	11(22)	8(34)	10(25)	10(42)	16(36)	5(35)
	子 宮 がん 発 見 率(%) J = I / B	0.04	0.03	0.04	0.04	0.07	0.02
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I / G	16.7	10.5	12.8	12.8	20.0	6.4
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	12	8	11	9	15	4
	確 定 がん 率(%) M = L / B	0.04	0.03	0.04	0.04	0.06	0.02

- \* 精密検査結果欄の( )内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- \* がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- \* 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成19年度子宮頸部がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
					要精検者数 d	異常認めず	
20~24歳	4,861	105	2.2	15	0	105	0.00
25~29歳	5,228	337	6.4	79	6	331	1.78
30~34歳	6,951	1,379	19.8	642	16	1,363	1.16
35~39歳	6,175	1,616	26.2	1,049	19	1,597	1.18
40~44歳	6,495	2,015	31.0	1,360	9	2,006	0.45
45~49歳	8,333	2,202	26.4	1,649	16	2,186	0.73
50~54歳	9,118	2,390	26.2	1,770	3	2,387	0.13
55~59歳	12,397	3,195	25.8	2,472	9	3,186	0.28
60~64歳	13,285	3,320	25.0	2,632	1	3,319	0.03
65~69歳	13,786	3,180	23.1	2,654	4	3,176	0.13
70~74歳	14,643	2,797	19.1	2,306	3	2,794	0.11
75~79歳	13,395	1,431	10.7	1,189	3	1,428	0.21
80歳以上	16,129	483	3.0	396	0	483	0.00
計	130,796	24,450	18.7	18,213	89	24,361	0.36

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果								子宮がん発見率 (%) n = k / b	陽性反応適中度 (%) o = k / f
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l	浸潤がん m		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	4	66.7	0	0	4	3	1	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	16	100.0	6	2	7	6	1	1	1	0	0.073	6.3
35～39歳	17	89.5	7	1	9	8	1	0	0	0	0.000	0.0
40～44歳	8	88.9	6	1	1	0	1	0	0	0	0.000	0.0
45～49歳	14	87.5	7	1	6	5	1	0	0	0	0.000	0.0
50～54歳	3	100.0	0	1	1	1	0	1	1	0	0.042	33.3
55～59歳	9	100.0	5	0	3	2	1	1	0	1	0.031	11.1
60～64歳	1	100.0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
65～69歳	2	50.0	1	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	2	66.7	0	0	1	1	0	1	0	1	0.036	50.0
75～79歳	2	66.7	0	0	1	1	0	1	0	1	0.070	50.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	78	87.6	32	6	35	29	6	5	2	3	0.020	6.4

3) 検診機関別

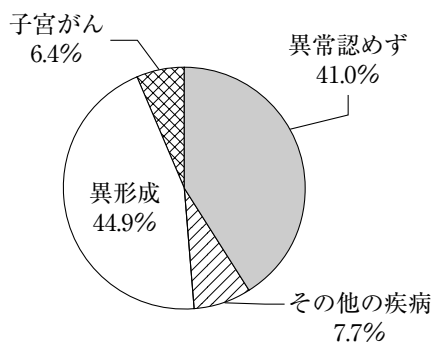
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) c' = b' / a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	9,679	22	9,657	0.23
病 院	6,093	13	6,080	0.21
診 療 所	8,678	54	8,624	0.62
計	24,450	89	24,361	0.36

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査率 (%) e' = d' / b'	精 密 検 査 結 果								子宮頸部がん発見率 (%) l' = i' / a'	陽性反応適中度 (%) m' = i' / d'
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'	浸潤がん k'		
保健事業団	19	86.4	7	1	10	8	2	1	0	1	0.010	5.3
病 院	8	61.5	5	1	2	2	0	0	0	0	0.000	0.0
診 療 所	51	94.4	20	4	23	19	4	4	2	2	0.046	7.8
計	78	87.6	32	6	35	29	6	5	2	3	0.020	6.4

精密検査結果



4) 平成19年度子宮頸部がん検診受診状況

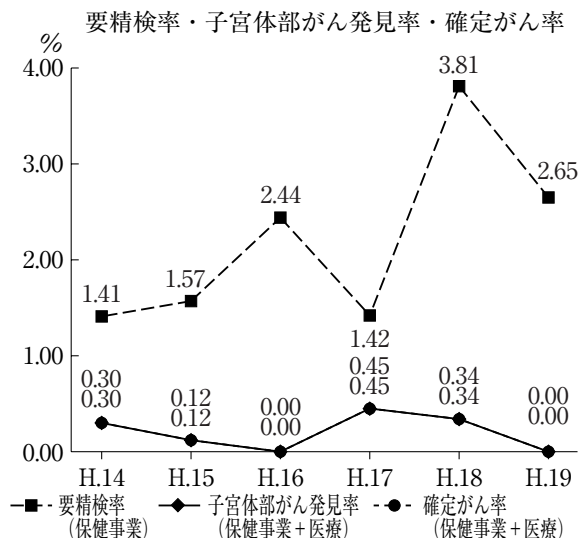
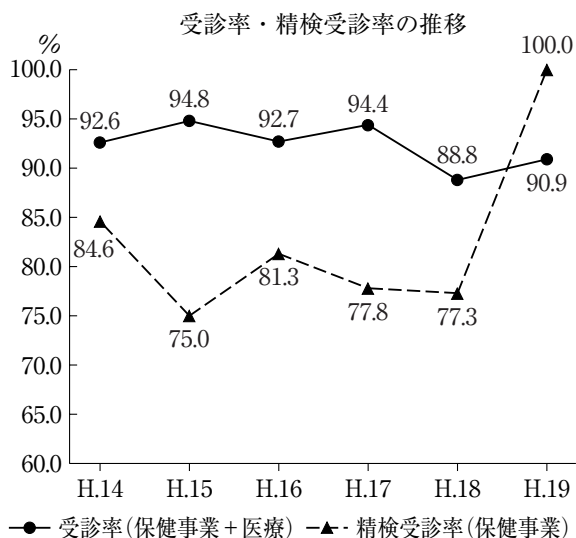
市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員					
	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	がん疑い N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/J	
鳥取市	1,762	4,275	6,037	14.0	3	19	22	0.36	18	81.8	7	1	9	1	11	0.017	5.6	
米子市	0	6,247	6,247	18.5	0	36	36	0.58	35	97.2	15	4	13	3	20	0.048	8.6	
倉吉市	602	930	1,532	16.5	4	2	6	0.39	6	100.0	3	0	3	0	3	0.000	0.0	
境港市	0	975	975	11.5	0	3	3	0.31	2	66.7	0	0	2	0	2	0.000	0.0	
岩美町	592	23	615	30.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
八頭町	1,180	49	1,229	21.7	5	0	5	0.41	3	60.0	0	0	2	1	3	0.081	33.3	
若桜町	315	10	325	27.9	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
智頭町	396	198	594	40.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
湯梨浜町	480	506	986	34.8	0	3	3	0.30	2	66.7	1	0	1	0	1	0.000	0.0	
三朝町	391	0	391	46.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
北栄町	938	99	1,037	28.4	2	0	2	0.19	2	100.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0	
琴浦町	1,145	43	1,188	33.0	1	0	1	0.08	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0	
南部町	334	290	624	37.9	3	3	6	0.96	5	83.3	3	0	2	0	2	0.000	0.0	
伯耆町	567	229	796	14.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日吉津村	50	221	271	23.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
大山町	447	324	771	19.7	3	1	4	0.52	3	75.0	1	1	1	0	2	0.000	0.0	
日南町	273	0	273	21.5	1	0	1	0.37	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0	
日野町	889	45	252	28.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
江府町	638	0	307	48.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
合計	9,679	14,771	24,450	18.7	22	67	89	0.36	78	87.6	32	6	35	5	46	0.020	6.4	
東部	4,245	4,555	8,800	16.5	8	19	27	0.31	21	77.8	7	1	11	2	14	0.023	9.5	
中部	3,556	1,578	5,134	25.4	7	5	12	0.23	11	91.7	5	0	6	0	6	0.000	0.0	
西部	1,878	8,638	10,516	18.4	7	43	50	0.48	46	92.0	20	5	18	3	26	0.029	6.5	

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分	平成14年度			平成15年度			平成16年度				
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計		
一次検診	対象者数(人) A		1,084			885			885	743	743
	受診者数(人) B	921	83	1,004	762	77	839	657	32	689	
	受診率(%) C = B / A	85.0		92.6	86.1		94.8	88.4		92.7	
一次検診結果	異常認めず(人) D	908			750			641			
	要精検者数(人) E	13			12			16			
	要精検率(%) F = E / B	1.41			1.57			2.44			
精密検査	精検受診者数(人) G	11			9			13			
	精検受診率(%) H = G / E	84.6			75.0			81.3			
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	1(4)	2(5)	3(9)	1(3)	0(4)	1(7)	0(1)	0(2)	0(3)	
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.11	2.41	0.30	0.13	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	
	陽性反応適中度(%) K = I / G	9.1			11.1			0.0			
確定調査結果	確定がん数(人) L			3			1			0	
	確定がん率(%) M = L / B			0.30			0.12			0.00	

区分	平成17年度			平成18年度			平成19年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	710		710	672		672	732		732
	受診者数(人) B	636	34	670	577	20	597	641	24	665
	受診率(%) C = B / A	89.6		94.4	85.9		88.8	87.6		90.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	627			555			624		
	要精検者数(人) E	9			22			17		
	要精検率(%) F = E / B	1.42			3.81			2.65		
精密検査	精検受診者数(人) G	7			17			17		
	精検受診率(%) H = G / E	77.8			77.3			100.0		
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	3(2)	0(2)	3(4)	1(1)	1(1)	2(2)	0(7)	0(3)	0(10)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.47	0.00	0.45	0.17	5.00	0.34	0.00	0.00	0.00
	陽性反応適中度(%) K = I / G	42.9			5.9			0.0		
確定調査結果	確定がん数(人) L			3			2			0
	確定がん率(%) M = L / B			0.45			0.34			0.00

- ※ 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
- ※ 精密検査結果欄の( )内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- ※ がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※ 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- ※ 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



#### (4) 平成19年度子宮体部がん検診結果

##### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b / a	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
				要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	1	1	100.0	0	1	0.00
25～29歳	7	6	85.7	0	6	0.00
30～34歳	28	24	85.7	0	24	0.00
35～39歳	55	51	92.7	1	50	1.96
40～44歳	90	80	88.9	5	75	6.25
45～49歳	164	153	93.3	2	151	1.31
50～54歳	149	125	83.9	6	119	4.80
55～59歳	102	91	89.2	2	89	2.20
60～64歳	55	44	80.0	1	43	2.27
65～69歳	43	33	76.7	0	33	0.00
70～74歳	21	18	85.7	0	18	0.00
75～79歳	14	12	85.7	0	12	0.00
80歳以上	3	3	100.0	0	3	0.00
計	732	641	87.6	17	624	2.65

##### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮体部 がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
35～39歳	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0
40～44歳	5	100.0	2	0	3	0	0.000	0.0
45～49歳	2	100.0	1	0	1	0	0.000	0.0
50～54歳	6	100.0	2	2	2	0	0.000	0.0
55～59歳	2	100.0	1	0	1	0	0.000	0.0
60～64歳	1	100.0	0	1	0	0	0.000	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	17	100.0	7	3	7	0	0.000	0.0

##### 3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 受診者数(人) k	精 密 検 査 結 果				子宮体部がん発見率 (%) m = l / k
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん l	
20～24歳	0	0	0	0	0	0.000
25～29歳	0	0	0	0	0	0.000
30～34歳	1	1	0	0	0	0.000
35～39歳	1	1	0	0	0	0.000
40～44歳	2	2	0	0	0	0.000
45～49歳	2	2	0	0	0	0.000
50～54歳	7	5	2	0	0	0.000
55～59歳	4	3	0	1	0	0.000
60～64歳	4	2	0	2	0	0.000
65～69歳	2	2	0	0	0	0.000
70～74歳	0	0	0	0	0	0.000
75～79歳	1	1	0	0	0	0.000
80歳以上	0	0	0	0	0	0.000
計	24	19	2	3	0	0.000

4) 平成19年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員					
	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異 常 認めず	その他 の疾病	子宮内膜 増殖症	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J	
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P	Q	R	
鳥取市	0	237	237	81.4	0	9	9	3.80	9	100.0	3	3	3	0	6	0.000	0.0	
米子市	0	227	227	100.0	0	3	3	1.32	3	100.0	1	0	2	0	2	0.000	0.0	
倉吉市	0	65	65	89.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
境港市	0	43	43	89.6	0	3	3	6.98	3	100.0	3	0	0	0	0	0.000	0.0	
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
八頭町	6	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
若桜町	1	1	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
湯梨浜町	34	33	33	97.1	0	2	2	6.06	2	100.0	0	0	2	0	2	0.000	0.0	
三朝町	1	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
北栄町	10	1	1	10.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
琴浦町	3	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
南部町	16	16	16	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
伯耆町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日吉津村	3	3	3	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
大山町	12	8	8	66.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日野町	1	1	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
江府町	6	6	6	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
合計	732	641	641	87.6	0	17	17	2.65	17	100.0	7	3	7	0	10	0.000	0.0	
東部	298	238	238	79.9	0	9	9	3.78	9	100.0	3	3	3	0	6	0.000	0.0	
中部	121	99	99	81.8	0	2	2	2.02	2	100.0	0	0	2	0	2	0.000	0.0	
西部	313	304	304	97.1	0	6	6	1.97	6	100.0	4	0	2	0	2	0.000	0.0	



(5) 平成19年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成18年度	平成19年度	平成18年度	平成19年度
異形成	8	10	28	25
頸癌0期	1	0	11	0
頸癌Ia期	1	1	0	1
頸癌Ib期以上	0	0	2	2
合計	10	11	41	28

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成18年度	平成19年度
内膜増殖症	2	10
体癌Ia、Ib期	2	0
体癌Ic期以上	0	1※
合計	4	11

※平成19年度1件については、子宮頸部がん検診から発見された癌です。

表3 発見子宮がん症例（Ib期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	2	2

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌Ia期	頸癌Ib期以上
鳥取大学	0	1	1
県立中央	0	0	1

### 3. 肺 が ん 検 診

#### 1. 肺がん検診実績

平成19年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は175,897人で、このうち受診者数は49,806人（車検診：34,125人、施設検診：15,681人）で、受診率は28.3%で、前年度に比べ、対象者数が10,417人減少、受診者数は510人、受診率は1.8ポイント増加した。

要精検者数は1,940人で、要精検率は3.90%で、平成18年度より、それぞれ160人増加、0.29ポイント増加した。そのうち、精検受診者1,656人、精検受診率85.4%で、平成18年度よりそれぞれ151人、0.8ポイント増加した。肺がん検診の受診率は年々減少し、平成17年度以降30%を下回っている。要精検率と精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん35人、がん疑い88人の計123人が発見され、肺がん発見率は0.07%であった。追跡調査の結果、確定肺がんは55人（原発性48人、転移性7人）で、確定がん率は0.11%となり、前年度よりも0.03ポイント減少したが、がん疑いのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。陽性反応適中度は前年度3.1%に比較して、平成19年度は2.1%と1.0ポイント減少した。受診率の向上と年々増加する肺癌疑いの症例をいかにフォローしていくかが今後の重要な課題である。

また、受診者総数のうち経年受診者37,104人で74.5%であった。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者6,365人（12.8%）で、そのうち喀痰検査を受診した者2,996人で、X線検査受診者の6.0%であった。そのうち要精検者2人、要精検率0.07%で、精検結果はその他の疾病が1人、精検未受診者が1人であった。市町村から精検未受診者に問い合わせをしたところ、精検を受診しがんと診断されているが、医療機関から紹介状が市町村に返送されていないことが分かった。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較を行った。経年受診者のがん発見率は0.067%で、非経年受診者のがん発見率0.079%で、非経年受診者のがん発見率の方が1.17倍高かった。また、高危険群所属者6,365人のうちがんが8人発見され、がん発見率0.126%、非高危険群所属者43,441人のうちがんが27人発見され、がん発見率0.062%で、高危険群所属者のがん発見率の方が2.10倍高かった。

平成17年度及び平成18年度と比較すると、経年受診者と非経年受診者、高危険群所属者と非高危険群所属者の有意差が年々低くなっている。

#### 2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成19年までの発見肺がんは826人（発見率10万対67人）であった。発見方法は胸部X線730人、喀痰細胞診52人、両者42人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合が減少している。平均年齢は71.9歳、男性510人、女性316で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が448人（54.2%）で過半数を占め、488人（59.1%）に手術が行われた。予後調査では全症例（826例）の累積生存率は5生率42.9%、10生率25.2%であり、手術例では5生率63.0%、10生率39.5%であった。手術例IA期の5生率は77.3%、10生率は55.0%と良好な結果を示した。

2) 平成19年度調査結果

- (1) 確定調査では原発性肺がん48例、転移性肺腫瘍7例、合計55例が肺がん確定診断であった。
- (2) 全例が胸部X線のみで発見されており、平成19年度は喀痰細胞診から発見された肺がんはな

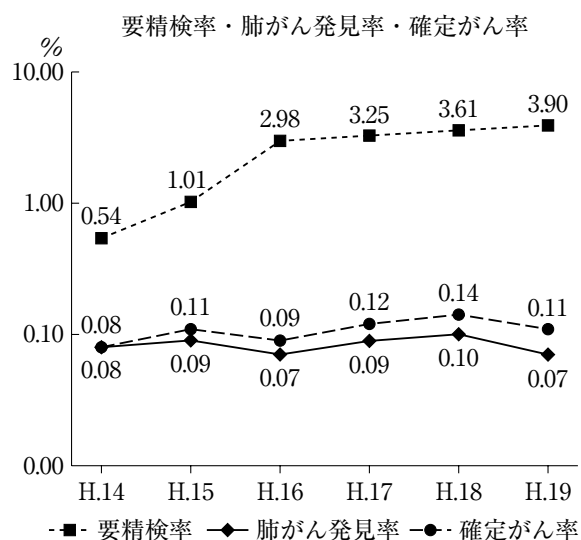
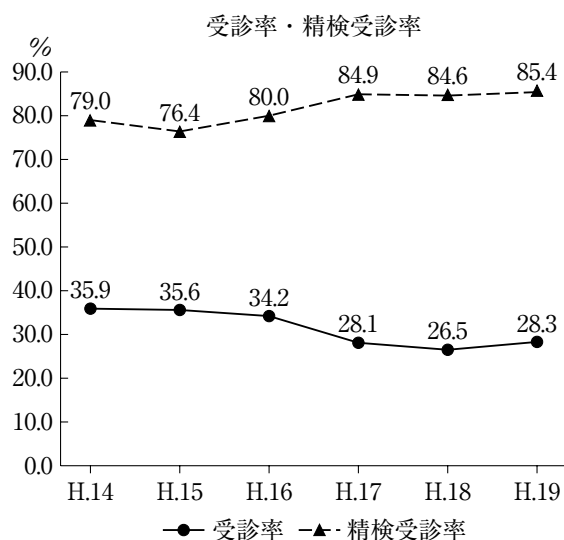
かった。胸部X線のE判定は45人、D判定は3人であった

- (3) 女性肺がんは24人（50.0%）、腺癌は35人（72.9%）、臨床病期I期は32人（66.7%）、手術例は34人（70.8%）と近年の傾向を反映していた。
- (4) 腫瘍径は平均24.6mmと例年より小型となり、20mm以下は18人（37.5%）であった。
- (5) 転移性肺腫瘍は7例で、原発は大腸がん2例、乳がん2例、胆管がん1例、尿管がん1例、後腹膜腫瘍1例であった。
- (6) 施設検診と車検診との比較を行い、要精検率は車検診3.6%、施設検診4.4%で、施設検診の方が高く、特に中部地区が10.8%と高かった。原発性肺がん48人のうち車検診は32人、発見率0.094%、施設検診は16人、発見率0.102%であった。

### (1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	177,198	178,762	175,873	181,410	186,314	175,897
	受 診 者 数(人) B	63,616	63,649	60,113	51,020	49,296	49,806
	受 診 率(%) C = B/A	35.9	35.6	34.2	28.1	26.5	28.3
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	63,273	63,009	58,327	49,361	47,516	47,866
	要 精 検 者 数(人) E	343	640	1,791	1,659	1,780	1,940
	要 精 検 率(%) F = E/B	0.54	1.01	2.98	3.25	3.61	3.90
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	271	489	1,433	1,409	1,505	1,656
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	79.0	76.4	80.0	84.9	84.6	85.4
精密検査結果	肺 がん の 者(人) I	48(11)	58(20)	45(48)	45(87)	47(75)	35(88)
	肺 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.08	0.09	0.07	0.09	0.10	0.07
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	17.7	11.9	3.1	3.2	3.1	2.1
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	54	68	52	62	67	55
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	48	65	50	57	62	48
	確 定 が ん 率(%) N = L/B	0.08	0.11	0.09	0.12	0.14	0.11

- \* 精密検査結果中の ( ) 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- \* がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- \* 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成19年度肺がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

#### a. X線検査結果

年 齢	対象者数(人)		X 線 検 査									エックス線フィルム読影結果								
			受診者数		受診率(%)			経年受診者数再掲 <sup>*1</sup>		経年受診者割合(%)		要精検者数		異常認めず		要精検率(%)			X線検査受診者中高危険群所属者 <sup>*2</sup>	
	a		b	c = b/a	d	e = d/b	f	g = f/b												
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
40～44歳	3,168	5,768	356	923	11.2	16.0	14.3	130	379	36.5	41.1	17	18	339	905	4.78	1.95	2.74	9	1
45～49歳	3,782	7,519	418	1,089	11.1	14.5	13.3	241	615	57.7	56.5	12	15	406	1,074	2.87	1.38	1.79	9	4
50～54歳	5,524	8,459	654	1,736	11.8	20.5	17.1	388	1,058	59.3	60.9	20	43	634	1,693	3.06	2.48	2.64	243	33
55～59歳	7,780	11,507	1,273	3,287	16.4	28.6	23.6	769	2,211	60.4	67.3	49	93	1,224	3,194	3.85	2.83	3.11	561	50
60～64歳	9,509	12,904	2,160	4,216	22.7	32.7	28.4	1,297	2,934	60.0	69.6	91	137	2,069	4,079	4.21	3.25	3.58	973	54
65～69歳	9,692	13,872	3,051	5,326	31.5	38.4	35.5	2,307	4,134	75.6	77.6	121	175	2,930	5,151	3.97	3.29	3.53	1,163	79
70～74歳	10,839	15,166	3,818	6,190	35.2	40.8	38.5	3,040	5,047	79.6	81.5	154	243	3,664	5,947	4.03	3.93	3.97	1,249	55
75～79歳	9,239	14,379	3,378	5,108	36.6	35.5	35.9	2,775	4,236	82.1	82.9	172	220	3,206	4,888	5.09	4.31	4.62	1,015	35
80歳以上	8,807	17,983	2,642	4,181	30.0	23.2	25.5	2,155	3,388	81.6	81.0	163	197	2,479	3,984	6.17	4.71	5.28	816	16
計	68,340	107,557	17,750	32,056	26.0	29.8	28.3	13,102	24,002	73.8	74.9	799	1,141	16,951	30,915	4.50	3.56	3.90	6,038	327
合計	175,897		49,806		28.3			37,104		74.5		1,940		47,866		3.90			6,365	

※1 経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

※2 高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

②6か月以内に血痰のあった者

#### b. 喀痰細胞診結果

年 齢	喀痰細胞診受診者数(人)		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率(%)		
			要精検者数		精 検 不 要		j = i / h		
	h		i				男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	21	11	0	0	21	11	0.00	0.00	0.00
45～49歳	53	5	0	0	53	5	0.00	0.00	0.00
50～54歳	115	25	0	0	115	25	0.00	0.00	0.00
55～59歳	221	45	0	0	221	45	0.00	0.00	0.00
60～64歳	413	60	0	0	413	60	0.00	0.00	0.00
65～69歳	507	85	0	0	507	85	0.00	0.00	0.00
70～74歳	580	75	1	0	579	75	0.17	0.00	0.15
75～79歳	408	70	0	0	408	70	0.00	0.00	0.00
80歳以上	284	18	1	0	283	18	0.35	0.00	0.33
計	2,602	394	2	0	2,600	394	0.08	0.00	0.07
合計	2,996		2		2,994		0.07		

## 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m = l / k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん n		o = n / b			p = n / l		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	17	18	14	18	82.4	100.0	91.4	9	13	5	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	12	15	11	13	91.7	86.7	88.9	9	8	2	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	20	43	18	36	90.0	83.7	85.7	10	25	7	9	1	1	0	1	0.000	0.058	0.042	0.0	2.8	1.9
55～59歳	49	93	41	75	83.7	80.6	81.7	23	36	18	35	0	4	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	91	137	75	124	82.4	90.5	87.3	37	57	36	60	1	6	1	1	0.046	0.024	0.031	1.3	0.8	1.0
65～69歳	121	175	105	162	86.8	92.6	90.2	55	74	41	75	6	11	3	2	0.098	0.038	0.060	2.9	1.2	1.9
70～74歳	154	243	128	218	83.1	89.7	87.2	55	99	56	101	10	12	7	6	0.183	0.097	0.130	5.5	2.8	3.8
75～79歳	172	220	141	193	82.0	87.7	85.2	58	103	71	81	7	7	5	2	0.148	0.039	0.082	3.5	1.0	2.1
80歳以上	163	197	132	152	81.0	77.2	78.9	39	68	77	71	13	9	3	4	0.114	0.096	0.103	2.3	2.6	2.5
計	799	1,141	665	991	83.2	86.9	85.4	295	483	313	442	38	50	19	16	0.107	0.050	0.070	2.9	1.6	2.1
合計	1,940		1,656		85.4			778		755		88		35		0.070			2.1		
X線のみ要精検	1,938		1,655		85.4			778		754		88		35		0.070			2.1		
喀痰のみ要精検	0		0		0.0			0		0		0		0		—			0.0		
X線+喀痰要精検	2		1		50.0			0		1		0		0		—			0.0		

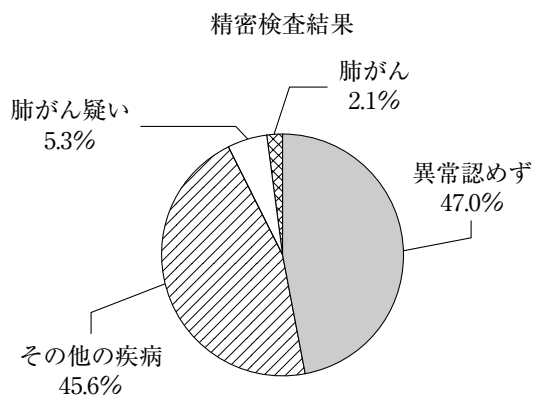
## 3) 検診機関別

### a. 一次検診結果

一次検診機関	受診者数(人)		一 次 検 診 結 果				要精検率(%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	11,880	21,438	473	720	11,407	20,718	3.98	3.36	3.58
中国労働衛生協会	319	488	17	33	302	455	5.33	6.76	6.20
病 院	2,398	4,152	171	179	2,227	3,973	7.13	4.31	5.34
診 療 所	3,153	5,978	138	209	3,015	5,769	4.38	3.50	3.80
計	17,750	32,056	799	1,141	16,951	30,915	4.50	3.56	3.90
合 計	49,806		1,940		47,866		3.90		

b. 精密検査結果

一次検診 機 関	精密検査受 診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	d'		e' = d' / b'			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん f'		g' = f' / a'			h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	404	626	85.4	86.9	86.3	156	322	205	261	32	35	11	8	0.093	0.037	0.057	2.7	1.3	1.8
中国労働衛生協会	15	31	88.2	93.9	92.0	3	17	9	9	2	5	1	0	0.313	0.000	0.124	6.7	0.0	2.2
病 院	133	145	77.8	81.0	79.4	81	64	47	76	2	3	3	2	0.125	0.048	0.076	2.3	1.4	1.8
診 療 所	113	189	81.9	90.4	87.0	55	80	52	96	2	7	4	6	0.127	0.100	0.110	3.5	3.2	3.3
計	665	991	83.2	86.9	85.4	295	483	313	442	38	50	19	16	0.107	0.050	0.070	2.9	1.6	2.1
合 計	1,656		85.4			778		755		88		35		0.070			2.1		



4) 平成19年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診 者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異認め ず L	その他の 疾病 M	がん疑い が N	O	入 有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	54,000	3,197	13,846	17,043	31.6	56	526	582	3.41	489	84.0	227	237	12	13	262	0.076	2.7
米子市	45,750	5,025	0	5,025	11.0	160	0	160	3.18	131	81.9	44	74	9	4	87	0.080	3.1
倉吉市	12,233	1,847	773	2,620	21.4	99	90	189	7.21	174	92.1	109	56	7	2	65	0.076	1.1
境港市	11,714	1,164	0	1,164	9.9	65	0	65	5.58	62	95.4	24	34	4	0	38	0.000	0.0
岩美町	2,567	981	0	981	38.2	24	0	24	2.45	22	91.7	17	4	1	0	5	0.000	0.0
八頭町	8,332	3,129	102	3,231	38.8	79	5	84	2.60	68	81.0	34	29	3	2	34	0.062	2.9
若桜町	1,519	636	0	636	41.9	20	0	20	3.14	15	75.0	10	4	0	1	5	0.157	6.7
智頭町	2,665	1,087	302	1,389	52.1	24	11	35	2.52	20	57.1	11	8	0	1	9	0.072	5.0
湯梨浜町	4,737	2,352	346	2,698	57.0	77	30	107	3.97	97	90.7	37	50	9	1	60	0.037	1.0
三朝町	1,584	1,300	0	1,300	82.1	61	0	61	4.69	55	90.2	20	29	4	2	35	0.154	3.6
北栄町	3,692	2,281	212	2,493	67.5	108	27	135	5.42	115	85.2	59	45	9	2	56	0.080	1.7
琴浦町	5,580	3,244	100	3,344	59.9	128	8	136	4.07	118	86.8	55	49	10	4	63	0.120	3.4
南部町	2,288	1,220	0	1,220	53.3	45	0	45	3.69	38	84.4	19	18	1	0	19	0.000	0.0
伯耆町	7,814	2,012	0	2,012	25.7	104	0	104	5.17	94	90.4	35	51	6	2	59	0.099	2.1
日吉津村	1,570	304	0	304	19.4	24	0	24	7.89	19	79.2	9	10	0	0	10	0.000	0.0
大山町	6,338	2,707	0	2,707	42.7	83	0	83	3.07	64	77.1	29	34	1	0	35	0.000	0.0
日南町	1,006	354	0	354	35.2	10	0	10	2.82	9	90.0	7	2	0	0	2	0.000	0.0
日野町	1,336	478	0	478	35.8	26	0	26	5.44	20	76.9	12	3	5	0	8	0.000	0.0
江府町	1,172	807	0	807	68.9	50	0	50	6.20	46	92.0	20	18	7	1	26	0.124	2.2
合計	175,897	34,125	15,681	49,806	28.3	1,243	697	1,940	3.90	1,656	85.4	778	755	88	35	878	0.070	2.1
東部	69,083	9,030	14,250	23,280	33.7	203	542	745	3.20	614	82.4	299	282	16	17	315	0.073	2.8
中部	27,826	11,024	1,431	12,455	44.8	473	155	628	5.04	559	89.0	280	229	39	11	279	0.088	2.0
西部	78,988	14,071	0	14,071	17.8	567	0	567	4.03	483	85.2	199	244	33	7	284	0.050	1.4



(3) 平成19年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性826、転移性102） 928例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 939例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	50
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	3	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	68	52

	平成17年	平成18年	平成19年	合計
原発性肺癌	57	62	48	826
転移性肺腫瘍	5	5	7	102
合 計	62	67	55	928

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H19年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 730例( 88.4%)	Dのみ	3例	} 48例(100.0%)	(E1：38例、E2：7例)
	Eのみ	485例		Eのみ	45例		
細 胞 診	Dのみ	18例	} 52例( 6.3%)	Dのみ	0例	} 0例( 0.0%)	
	Eのみ	34例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 42例( 5.1%)	D + D	0例	} 0例( 0.0%)	
	D + E	8例		D + E	0例		
	E + D	5例		E + D	0例		
	E + E	19例		E + E	0例		
	不明	2例	2例( 0.2%)	不明	0例	0例( 0.0%)	
計 826例				計 48例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
計	1,239,993	10,958(0.88%)	9,097(83.0%)	826	67

4) 原発性肺癌 (826例)

(1) 年齢・性別

[H19年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	61例	7.4
60～69歳	247	29.9
70～79歳	378	45.8
80～	140	16.9
計	826	100.0

平均年齢=71.9  
男：女=510例：316例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	1例	2.1
60～69歳	11	22.9
70～79歳	26	54.2
80～	10	20.8
計	48	100.0

平均年齢=73.6  
男：女=24例：24例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H19年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	317(38.4)
I B	131
II A	26
II B	56
III A	114
III B	57
IV	97
不明	26
計	826

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	25(52.1)
I B	7
II A	0
II B	0
III A	3
III B	2
IV	9
不明	2
計	48

} 32  
(66.7%)

b. 組織型

〔H19年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	228例
腺癌	457(55.3)
大細胞癌	12
小細胞癌	49
腺扁平上皮癌	9
腺様嚢胞癌	1
不明	71
計	827

組織型	(%)
扁平上皮癌	5例
腺癌	35(72.9)
大細胞癌	0
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	48

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例 (488例、

手術率：59.1%)

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	271(55.5)	I A	237(48.6)
I B	99	I B	104
II A	13	II A	19
II B	31	II B	35
III A	54	III A	56
III B	12	III B	21
IV	6	IV	14
計	488	計	488

〔H19年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

(34例、手術率：70.8%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	23(67.6)	I A	22(64.7)
I B	7	I B	7
II A	0	II A	1
II B	0	II B	0
III A	0	III A	0
III B	1	III B	1
IV	3	IV	3
計	34	計	34

b. 組織型分類

〔19年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	124例
腺癌	329(67.4)
大細胞癌	10
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	10
腺様嚢胞癌	1
不明	8
計	488

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	29(85.3)
大細胞癌	0
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	1
計	34

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

c. 根治度

〔平成19年度集計〕

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	362例(74.2)
相対的治癒手術	63
相対的非治癒手術	28
絶対的非治癒手術	28
不明	7
計	488

} 425 (87.1%)

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	25例(73.5)
相対的治癒手術	2
相対的非治癒手術	4
絶対的非治癒手術	3
不明	0
計	34

} 27 (79.4%)

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.0)	11	26(41.9)	14(29.2)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.1)	15	18
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

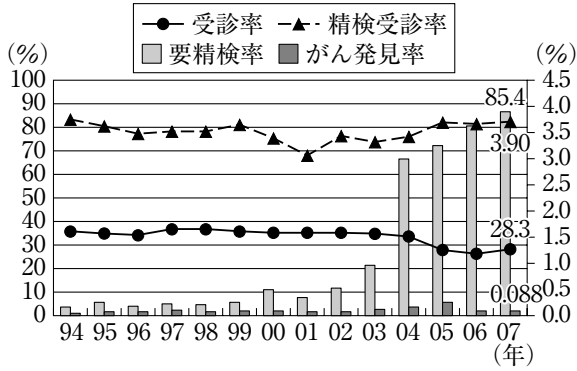
5) 転移性肺腫瘍 (102例)

大腸がん：26例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：10例 乳癌：9例 肝臓癌：7例  
 前立腺癌：6例 胆のう癌：3例 卵巣癌：2例 胃癌：3例 肺癌：2例  
 子宮癌：3例 尿管癌：4例 食道癌：2例 咽頭癌：1例 肛門癌：1例  
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 膵臓癌：1例 膀胱癌：1例  
 胆管癌：2例 後腹膜腫瘍：1例 不明：5例

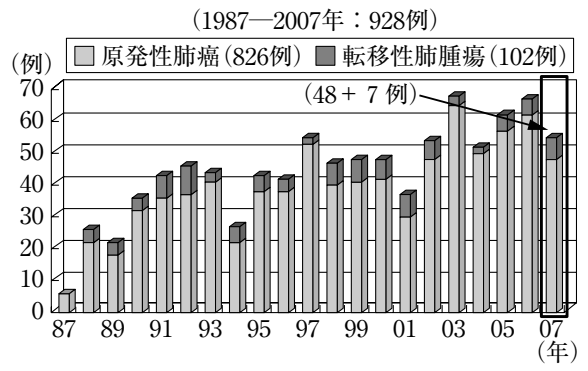
6) 平成19年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	15,681	34,125
要精検数	697(4.4%) 東部：542(3.8%) 中部：155(10.8%) 西部：—	1,243(3.6%) 東部：203(2.2%) 中部：473(4.3%) 西部：567(4.0%)
確定者数	16名(0.102%)	32名(0.094%)
発見方法	D判定 1名 E判定 15名 (E1：14, E2：1)	D判定 2名 E判定 30名 (E1：24, E2：6)
年齢	71.5歳	74.6歳
性差	男6名、女10名	男18名、女14名
臨床病期	I A 8名、I B 4名 II A 0名、II B 0名 III A 1名、III B 0名 IV 3名	I A 17名、I B 3名 II A 0名、II B 0名 III A 2名、III B 2名 IV 6名 不明2名
組織型	扁平上皮癌1名、腺癌13名 腺扁平上皮癌0名、小細胞癌1名 不明1名	扁平上皮癌4名、腺癌22名 腺扁平上皮癌1名、小細胞癌2名 不明3名
手術	あり13名、なし3名	あり21名、なし11名
腫瘍径	26.6mm	26.8mm

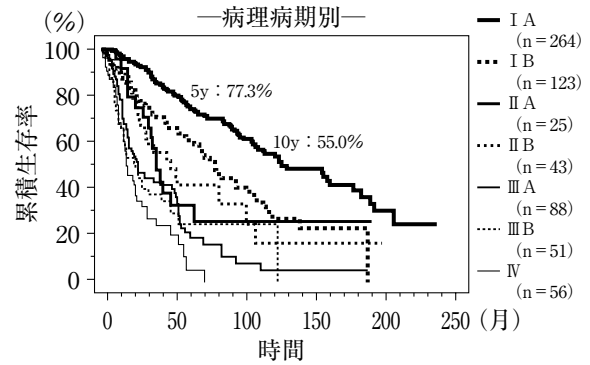
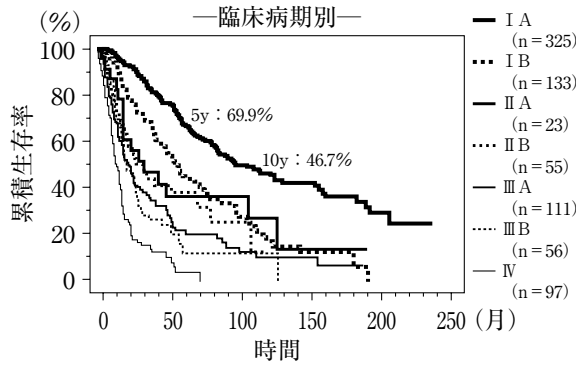
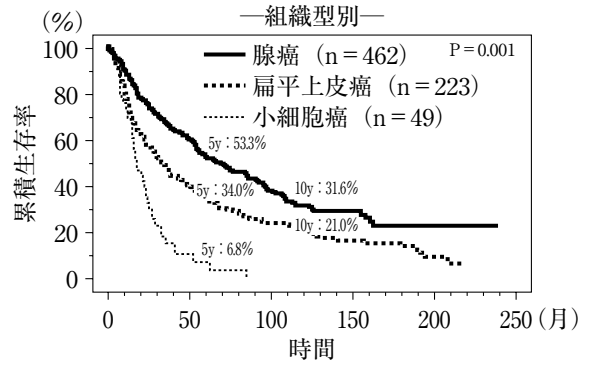
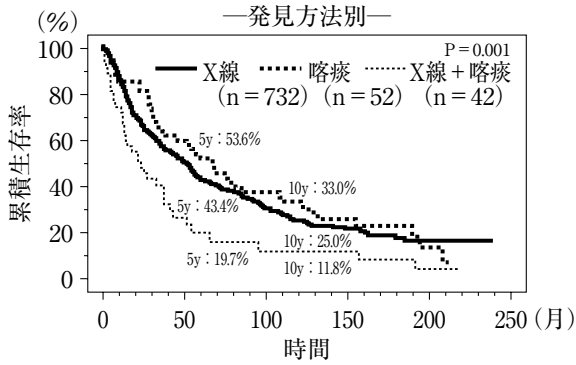
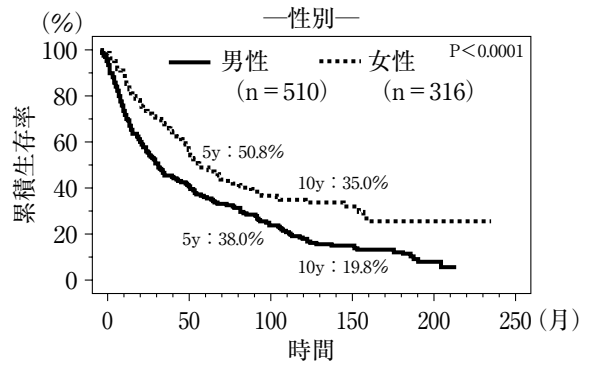
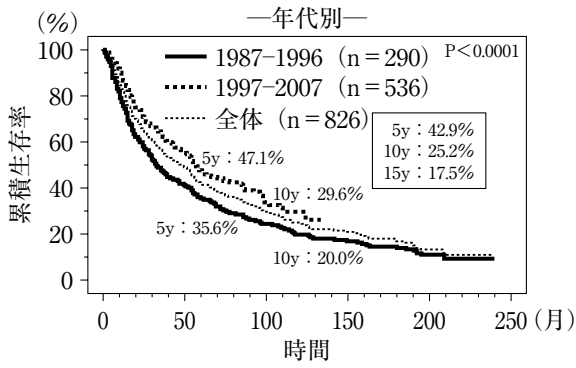
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移

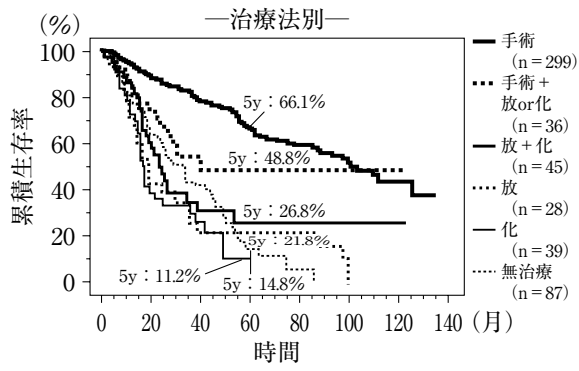


8) 検診で発見された肺癌の推移 (1987—2007年：928例)

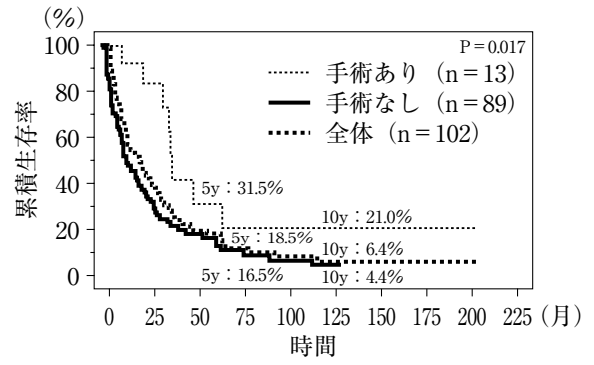


9) 検診発見肺癌の予後





10) 検診発見転移性肺腫瘍の予後



## 4. 乳 がん 検 診

### 1. 乳がん検診実績

平成17年度より40歳以上を対象者とし、同一人が隔年でマンモグラフィ併用検診を行うことに検診内容が変更となった。平成19年度の対象者数は108,292人で、このうち受診者数は14,134人(車検診：6,339人、施設検診：7,795人)で、受診率は13.1%であった。なお、19年度よりマンモグラフィ併用検診のみの結果を報告することとし、視触診のみは参考報告とすることとした。また、受診率は隔年検診となっているので、2年間の受診者数で受診率を算出すると、平成19年度の最終受診率は24.8%であった。

要精検者数は1,369人、要精検率は9.69%で前年度より1.1ポイント減少した。精検受診者数は1,275人、精検受診率は93.1%と前年度を2.4ポイント上回り、過去最高であった。この結果、乳がんが59人発見され、発見率は0.42%、陽性反応的中度は4.6%であった。平成18年度に比して、それぞれ14人、0.1ポイント、0.7ポイント減少した。また、乳がん疑いも8人あった。

要精検率は全国平均の8%に比して、高い傾向にあり、地区別でみると東部10.30%、西部9.93%、中部8.09%と中部以外は全国平均の8%を上回っていた。がん発見率は、東部0.40%、中部0.13%、西部0.59%。陽性反応適中度はそれぞれ4.2%、1.8%、6.2%と地区によって格差がみられた。これは地区によって検診の体制が多少異なっていることも原因として考えられるので、今後検診体制の標準化を検討していく必要がある。

### 2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

平成19年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い72例について確定調査を行った結果、67例(両側1例)が確定乳がんで、異常なし4例、良性1例であった。

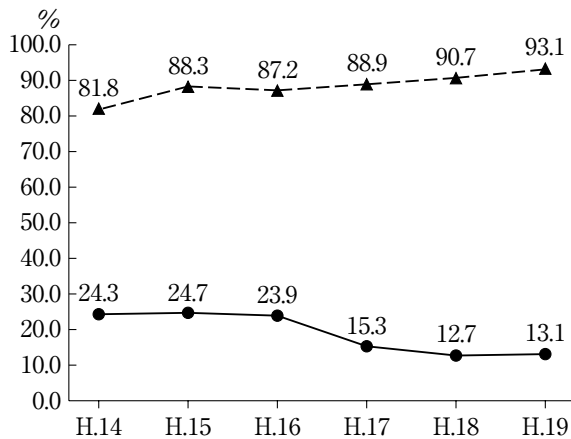
確定乳がん67例中11例が非浸潤がんであり、マンモグラフィによる非触知乳がんの発見が30例(44.8%)であった。一次検診要精検例のうちマンモグラフィで異常がなく、視触診のみ異常があったものが6例あり、マンモグラフィの撮影条件や読影等の検討が必要と思われる。乳房温存率は昨年に比し上昇した。腋窩敦清省略が増加した。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

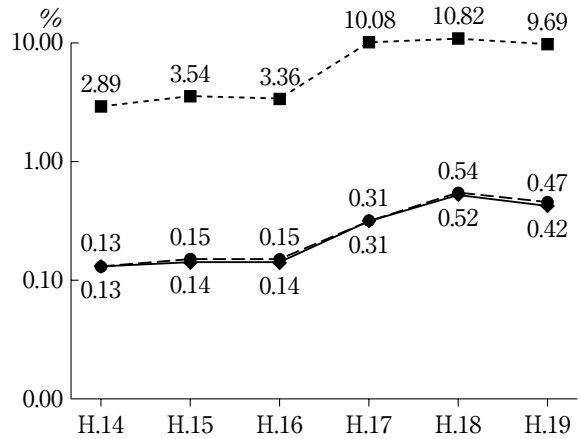
区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	127,944	127,945	125,270	112,384	109,634	108,292
	受 診 者 数(人) B	31,105	31,539	29,888	17,237	13,956	14,134
	受 診 率(%) C = B/A	24.3	24.7	23.9	15.3	12.7	13.1
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	30,207	30,424	28,885	15,499	12,446	12,765
	要 精 検 者 数(人) E	898	1,115	1,003	1,738	1,510	1,369
	要 精 検 率(%) F = E/B	2.89	3.54	3.36	10.08	10.82	9.69
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	735	985	875	1,545	1,370	1,275
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	81.8	88.3	87.2	88.9	90.7	93.1
精 密 検 査 結 果	乳 が ん の 者(人) I	39(3)	43(6)	43(3)	53(7)	73(7)	59(8)
	乳 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.13	0.14	0.14	0.31	0.52	0.42
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	5.3	4.4	4.9	3.4	5.3	4.6
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	41	46	46	53	75	67
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.13	0.15	0.15	0.31	0.54	0.47

- \* 精密検査結果欄の( )内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- \* がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- \* 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- \* 平成19年度実績は、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上

受診率・精検受診率の推移



要精検率・乳がん発見率の推移



● 受診率 ▲ 精検受診率

■ 要精検率 ◆ 乳がん発見率 ● 確定がん率

(2) 平成19年度乳がん検診結果（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) C = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = i/b
40～44歳	6,508	1,509	23.2	189	1,320	12.52	33	2.19	135	8.95	21	1.39
45～49歳	8,433	1,507	17.9	225	1,282	14.93	38	2.52	169	11.21	18	1.19
50～54歳	9,238	1,801	19.5	212	1,589	11.77	25	1.39	172	9.55	15	0.83
55～59歳	12,534	2,237	17.8	178	2,059	7.96	25	1.12	135	6.03	18	0.80
60～64歳	13,220	2,328	17.6	203	2,125	8.72	29	1.25	152	6.53	22	0.95
65～69歳	13,805	1,800	13.0	142	1,658	7.89	18	1.00	113	6.28	11	0.61
70～74歳	14,667	1,775	12.1	129	1,646	7.27	22	1.24	99	5.58	8	0.45
75～79歳	13,546	811	6.0	55	756	6.78	9	1.11	38	4.69	8	0.99
80歳以上	16,341	366	2.2	36	330	9.84	6	1.64	27	7.38	3	0.82
計	108,292	14,134	13.1	1,369	12,765	9.69	205	1.45	1,040	7.36	124	0.88



2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) l	精密検査受診率(%) m = l / d	精密検査結果				乳がん 発見率(%) o = n / b	陽性反応 適中度(%) p = n / l
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	171	90.5	67	100	0	4	0.265	2.3
45～49歳	208	92.4	91	112	2	3	0.199	1.4
50～54歳	199	93.9	89	99	1	10	0.555	5.0
55～59歳	166	93.3	77	80	1	8	0.358	4.8
60～64歳	191	94.1	112	63	4	12	0.515	6.3
65～69歳	138	97.2	73	59	0	6	0.333	4.3
70～74歳	123	95.3	71	42	0	10	0.563	8.1
75～79歳	46	83.6	34	10	0	2	0.247	4.3
80歳以上	33	91.7	18	11	0	4	1.093	12.1
計	1,275	93.1	632	576	8	59	0.417	4.6

3) 検診機関別

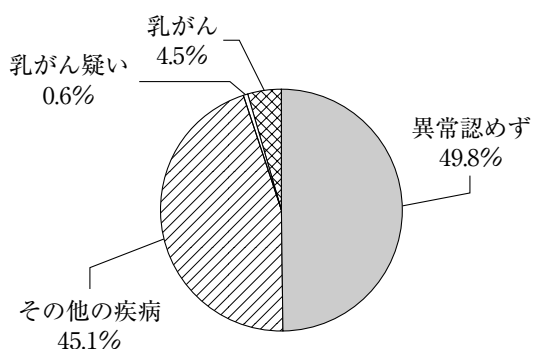
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
保健事業団	5,981	496	5,485	8.29	58	0.97	403	6.74	35	0.59
病 院	6,005	622	5,383	10.36	115	1.92	439	7.31	68	1.13
診 療 所	1,790	212	1,578	11.84	16	0.89	176	9.83	20	1.12
そ の 他	358	39	319	10.89	16	4.47	22	6.15	1	0.28
計	14,134	1,369	12,765	9.69	205	1.45	1,040	7.36	124	0.88

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) j	精密検査受診率(%) k' = j' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率(%) m' = l' / a'	陽性反応 適中度(%) n' = l' / j'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	455	91.7	264	173	5	13	0.217	2.9
病 院	577	92.8	277	273	2	25	0.416	4.3
診 療 所	205	96.7	70	117	1	17	0.950	8.3
そ の 他	38	97.4	21	13	0	4	1.117	10.5
計	1,275	93.1	632	576	8	59	0.417	4.6

精密検査結果



4) 平成19年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異常 認めず L	その他 の疾病 M	がん疑い N	が ん O	有 見 者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	37,000	1,287	2,523	3,810	10.3	147	281	428	11.23	393	91.8	223	153	2	15	170	0.394	3.8
米子市	27,601	408	3,040	3,448	12.5	31	367	398	11.54	387	97.2	122	234	1	30	265	0.870	7.8
倉吉市	7,012	420	541	961	13.7	22	38	60	6.24	56	93.3	36	19	0	1	20	0.104	1.8
境港市	7,506	58	0	58	0.8	3	0	3	5.17	3	100.0	1	2	0	0	2	0.000	0.0
岩美町	1,950	239	0	239	12.3	24	0	24	10.04	23	95.8	15	6	0	2	8	0.837	8.7
八頭町	4,752	770	26	796	16.8	72	1	73	9.17	64	87.7	47	12	1	4	17	0.503	6.3
若桜町	1,073	173	0	173	16.1	15	0	15	8.67	13	86.7	9	3	1	0	4	0.000	0.0
智頭町	1,318	0	496	496	37.6	0	28	28	5.65	27	96.4	15	11	0	1	12	0.202	3.7
湯梨浜町	1,939	263	139	402	20.7	25	5	30	7.46	26	86.7	17	8	1	0	9	0.000	0.0
三朝町	641	181	0	181	28.2	20	0	20	11.05	17	85.0	7	9	0	1	10	0.552	5.9
北栄町	3,000	579	104	683	22.8	48	18	66	9.66	62	93.9	38	24	0	0	24	0.000	0.0
琴浦町	2,645	631	144	775	29.3	48	19	67	8.65	61	91.0	35	24	0	2	26	0.258	3.3
南部町	1,295	234	200	434	33.5	11	13	24	5.53	23	95.8	6	15	1	1	17	0.230	4.3
伯耆町	4,253	365	117	482	11.3	26	14	40	8.30	35	87.5	18	17	0	0	17	0.000	0.0
日吉津村	821	73	62	135	16.4	8	8	16	11.85	15	93.8	5	10	0	0	10	0.000	0.0
大山町	2,860	318	175	493	17.2	18	24	42	8.52	40	95.2	21	17	0	2	19	0.406	5.0
日南町	1,228	189	0	189	15.4	9	0	9	4.76	7	77.8	6	1	0	0	1	0.000	0.0
日野町	782	151	35	186	23.8	8	4	12	6.45	11	91.7	6	4	1	0	5	0.000	0.0
江府町	616	0	193	193	31.3	0	14	14	7.25	12	85.7	5	7	0	0	7	0.000	0.0
合計	108,292	6,339	7,795	14,134	13.1	535	834	1,369	9.69	1,275	93.1	632	576	8	59	643	0.417	4.6
東部	46,093	2,469	3,045	5,514	12.0	258	310	568	10.30	520	91.5	309	185	4	22	211	0.399	4.2
中部	15,237	2,074	928	3,002	19.7	163	80	243	8.09	222	91.4	133	84	1	4	89	0.133	1.8
西部	46,962	1,796	3,822	5,618	12.0	114	444	558	9.93	533	95.5	190	307	3	33	343	0.587	6.2

【参考】

●平成19年度乳がん検診結果（視触診のみ）

1) 一次検診結果

年 齢	対象者数 (人) a	一 次 検 診 受 診 者 数 b	受診率(%) c = b / a	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) e = d / b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	6,508	68	1.0	13	55	19.12
45～49歳	8,433	82	1.0	5	77	6.10
50～54歳	9,238	70	0.8	9	61	12.86
55～59歳	12,534	105	0.8	10	95	9.52
60～64歳	13,220	143	1.1	9	134	6.29
65～69歳	13,805	187	1.4	8	179	4.28
70～74歳	14,667	266	1.8	13	253	4.89
75～79歳	13,546	179	1.3	12	167	6.70
80歳以上	16,341	90	0.6	3	87	3.33
計	108,292	1,190	1.1	82	1,108	6.89

2) 精密検診結果

年 齢	精密検査 受診者数 (人) f	精密検査 受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / f
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	12	92.3	3	9	0	0	0.000	0.0
45～49歳	4	80.0	4	0	0	0	0.000	0.0
50～54歳	8	88.9	5	3	0	0	0.000	0.0
55～59歳	9	90.0	8	1	0	0	0.000	0.0
60～64歳	9	100.0	6	2	0	1	0.699	11.1
65～69歳	8	100.0	3	3	0	2	1.070	25.0
70～74歳	12	92.3	7	4	0	1	0.376	8.3
75～79歳	11	91.7	7	3	0	1	0.559	9.1
80歳以上	2	66.7	1	1	0	0	0.000	0.0
計	75	91.5	44	26	0	5	0.420	6.7

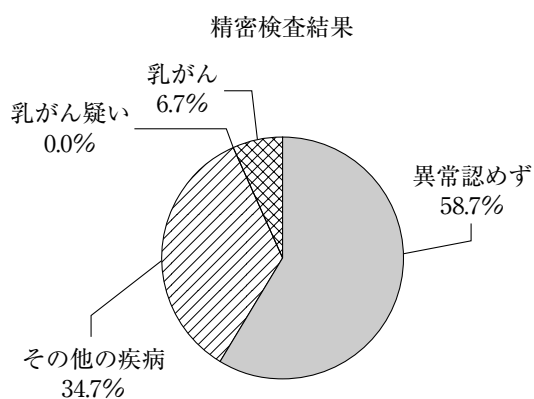
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受 診 者 数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c' = b' / a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	177	5	172	2.82
病 院	469	50	419	10.66
診 療 所	537	20	517	3.72
そ の 他	7	7	0	100.0
計	1,190	82	1,108	6.89

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) d'	精密検査 受診率 (%) e' = d' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応 適中度 (%) h' = f' / d'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
保健事業団	4	80.0	2	1	0	1	0.565	25.0
病院	47	94.0	31	13	0	3	0.640	6.4
診療所	18	90.0	7	10	0	1	0.186	5.6
その他	6	85.7	4	2	0	0	0.000	0.0
計	75	91.5	44	26	0	5	0.420	6.7



4) 平成19年度乳がん検診受診状況(視触診のみ)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異 常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	が ん	有 見 者	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J	
鳥取市	37,000	1	1	2	0.01	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
米子市	27,601	0	3	3	0.01	0	2	66.67	1	50.0	0	0	0	1	1	33.333	100.0	
倉吉市	7,012	0	30	30	0.43	0	30	100.0	28	93.3	18	9	0	1	10	3.333	3.6	
境港市	7,506	0	824	824	10.98	0	36	4.37	34	94.4	20	12	0	2	14	0.243	5.9	
岩美町	1,950	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
八頭町	4,752	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
若桜町	1,073	7	0	7	0.65	7	7	100.0	6	85.7	4	2	0	0	2	0.000	0.0	
智頭町	1,318	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
湯梨浜町	1,939	174	142	316	16.30	4	6	1.90	5	83.3	2	2	0	1	3	0.316	20.0	
三朝町	641	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
北栄町	3,000	2	6	8	0.27	1	1	12.50	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0	
琴浦町	2,645	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
南部町	1,295	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
伯耆町	4,253	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日吉津村	821	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大山町	2,860	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日南町	1,228	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日野町	782	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
江府町	616	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	108,292	184	1,006	1,190	1.10	12	82	6.89	75	91.5	44	26	0	5	31	0.420	6.7	
東部	46,093	8	1	9	0.02	7	7	77.78	6	85.7	4	2	0	0	2	0.000	0.0	
中部	15,237	176	178	354	2.32	5	37	10.45	34	91.9	20	12	0	2	14	0.565	5.9	
西部	46,962	0	827	827	1.76	0	38	4.59	35	92.1	20	12	0	3	15	0.363	8.6	

(4) 平成19年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 72

確定乳癌 67 (両側 1例)

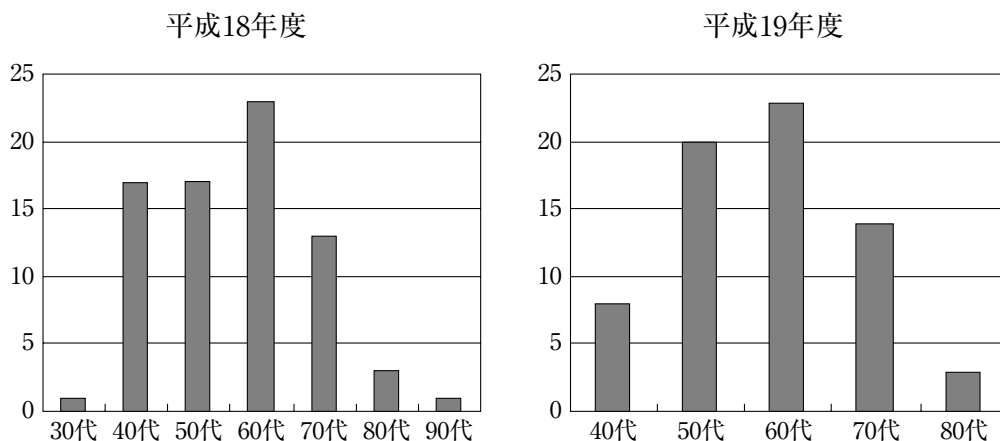
異常なし4、良性1。

鳥取市17、米子市32、倉吉市2、境港市2、岩美町2

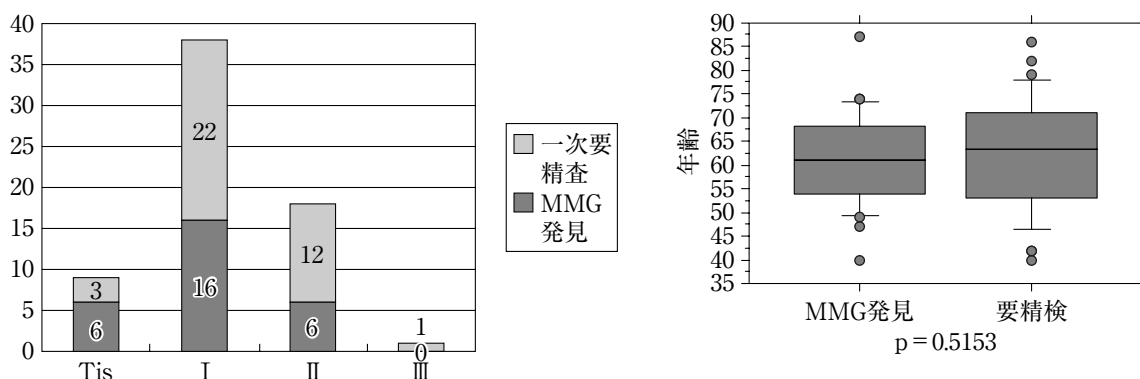
若桜町1、智頭町1、八頭町5、湯梨浜町2、琴浦町2

三朝町1、大山町2、南部町2、日野町1

2) 年齢構成 平均年齢 61.8歳



3) 病期分類



一次検診医の診断

要精査 38 (MMGで所見無し 6例。未実施 3例)

異常なし (=MMG発見) 29

4) 組織型

非浸潤癌11

浸潤癌54、不明2

硬癌 23

乳頭腺管癌 20

充実腺管癌 8

浸潤性乳管癌 3

リンパ節転移の有無 n = 30

MMG発見 5/13 (38.5%)、1—16個

一次要精査 4/21 (19.0%)、1—8個

5) 検診歴

初回検診	28例
繰り返し検診	39例 (H17年 20例)

6) 手術術式 手術数 66 なし1例、不明1例

		乳房温存術	乳房切除術	
MMG発見		22	8	
一次要精査		26	10	
		48	18	
腋窩郭清		あり	SLNB	なし
MMG発見	乳房温存術	15	6	
	乳房切除術	5	3	
一次要精査	乳房温存術	19	7	
	乳房切除術	7	3	1
		46	19	1

まとめ

1. 平成19年度検診発見乳癌は67例で、非浸潤癌は11例であった。
2. マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が30例 (44.8%) であった。
3. 一次検診要精検例でマンモグラフィ異常なしが6例 (平均年齢59.7歳) があった。
4. 臨床病期ではマンモグラフィ発見と一次要精査例で差はなかった。リンパ節転移はマンモグラフィ発見例において38.5%と高値を認めた。
5. 乳房温存率は昨年に対し上昇した。腋窩郭清省略が増加した。

## 5. 大腸がん検診

### 1. 大腸がん検診実績

平成18年度から全市町村で1日2個法によるがん検診が実施された。

平成19年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は175,367人で、受診者数は51,773人（地域検診：20,287人、施設検診：31,486人）で、受診率は29.5%であった。受診者数が一番多かった平成15年度と比べると、対象者数が3,907人、受診者数が4,445人も減少している。

このうち要精検者数は4,305人（地域検診：1,285人、施設検診：3,020人）、要精検率は8.3%、そのうち、精検受診者数は3,126人、精検受診率は72.6%であった。精検の結果、大腸がん145人、がん発見率は0.28%、陽性反応の中度は4.63%であった。がん疑いは5人発見された。

受診者数、受診率、要精検率は平成18年度とほぼ同様な結果であった。また、精検受診率が平成18年度に引き続き平成19年度も70%台を維持した。がん発見者数が平成18年度より11人減少した。がん発見率、陽性反応適中度は平成18年度に比べ、それぞれ0.02ポイント、0.4ポイント減少した。

要精検率の圏域格差がある。要精検率が高いと精検受診率低下傾向につながり、陽性反応適中度が低率という結果が出ているので、要精検率は6～7%が妥当と思われる。カットオフ値、要精検率の目安を、今後検討する必要がある。

### 2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん145例、がん疑い5例、合計150例について確定調査を行った結果、確定癌149例（地域検診47例、施設検診102例）で、そのうち早期がんは93例で、早期癌率は62.4%で、平成18年度全国集計とほぼ同様な結果であった。

調査の結果は、以下のとおりである。

- (1) 性及び年齢では男女とも65歳以上からがんが多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が55.7%、早期癌では「Ip」「Isp」が5割以上を占め、ポリープ形態の隆起型が多い。進行癌では「2」が大半を占めていた。平成18年度とほぼ同様な結果であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が18.1%であった。また、大きさが記入していない症例が23例もあった。
- (4) Dukes分類は「A」が78.5%で、組織型分類は「Well」が63.1%、「Mod」が31.5%であった。平成18年度と同様な結果であった。
- (5) 治療方法は外科手術が68例（45.6%）、鏡視下手術8例（5.4%）、内視鏡治療は69例（46.3%）であった。
- (6) 逐年検診発見進行大腸癌は15例（東部5例、中部2例、西部8例）であった。

15例中11例は前年度の便潜血検査結果が陰性であった。精検未受診者が1例、精密検査の結果、異常なしと診断されたものが3例であった。



### (1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

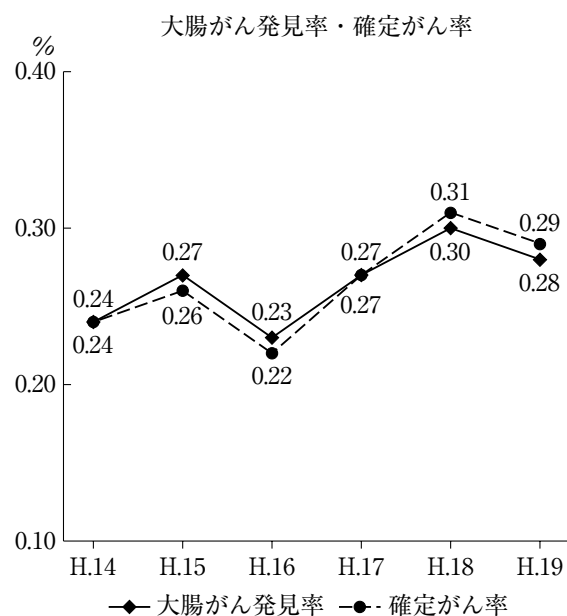
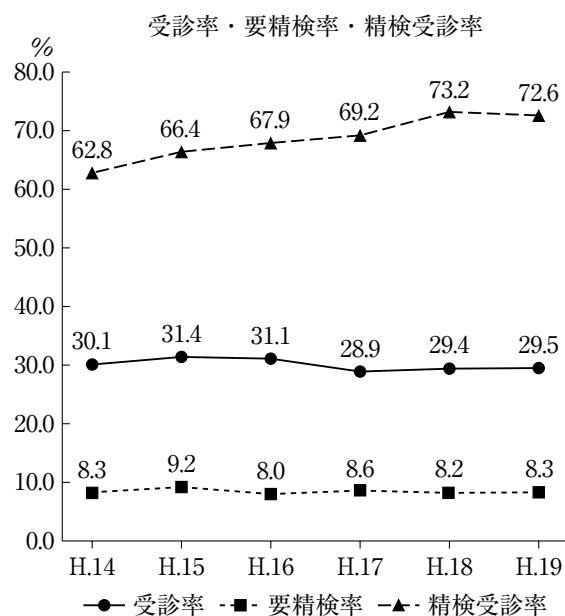
区 分		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	177,254	179,274	174,300	180,366	176,794	175,367
	受 診 者 数(人) B	53,336	56,218	54,170	52,045	52,026	51,773
	受 診 率(%) C = B/A	30.1	31.4	31.1	28.9	29.4	29.5
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	48,931	51,024	49,818	47,569	47,782	47,468
	要 精 検 者 数(人) E	4,405	5,194	4,352	4,476	4,244	4,305
	要 精 検 率(%) F = E/B	8.3	9.2	8.0	8.6	8.2	8.3
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,767	3,449	2,955	3,097	3,108	3,126
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	62.8	66.4	67.9	69.2	73.2	72.6
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	126(12)	149(8)	123(8)	138(6)	156(9)	145(5)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.24	0.27	0.23	0.27	0.30	0.28
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.6	4.3	4.2	4.5	5.0	4.6
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	127	147	119	139	159	149
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.24	0.26	0.22	0.27	0.31	0.29

※1 精密検査結果欄の( )内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成19年度大腸がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	3,321	5,959	428	1,121	12.9	18.8	16.7	32	79	396	1,042	7.5	7.0	7.2
45～49歳	3,991	7,742	541	1,392	13.6	18.0	16.5	34	80	507	1,312	6.3	5.7	5.9
50～54歳	5,698	8,609	789	1,977	13.8	23.0	19.3	54	113	735	1,864	6.8	5.7	6.0
55～59歳	7,957	11,588	1,432	3,557	18.0	30.7	25.5	112	207	1,320	3,350	7.8	5.8	6.4
60～64歳	9,580	12,873	2,441	4,672	25.5	36.3	31.7	222	277	2,219	4,395	9.1	5.9	7.0
65～69歳	9,623	13,683	3,370	5,580	35.0	40.8	38.4	336	360	3,034	5,220	10.0	6.5	7.8
70～74歳	10,609	14,972	3,985	6,291	37.6	42.0	40.2	437	470	3,548	5,821	11.0	7.5	8.8
75～79歳	9,070	13,990	3,387	4,961	37.3	35.5	36.2	383	447	3,004	4,514	11.3	9.0	9.9
80歳以上	8,631	17,471	2,394	3,455	27.7	19.8	22.4	298	364	2,096	3,091	12.4	10.5	11.3
計	68,480	106,887	18,767	33,006	27.4	30.9	29.5	1,908	2,397	16,859	30,609	10.2	7.3	8.3
合計	175,367		51,773		29.5			4,305		47,468		8.3		

### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h / b			j = h / f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	18	53	56.3	67.1	64.0	11	33	7	19	0	0	0	1	0.000	0.089	0.065	0.0	1.9	1.4
45～49歳	19	56	55.9	70.0	65.8	6	35	12	20	0	0	1	1	0.185	0.072	0.103	5.3	1.8	2.7
50～54歳	28	86	51.9	76.1	68.3	10	43	15	40	0	0	3	3	0.380	0.152	0.217	10.7	3.5	5.3
55～59歳	79	157	70.5	75.8	74.0	21	71	51	81	0	0	7	5	0.489	0.141	0.241	8.9	3.2	5.1
60～64歳	153	225	68.9	81.2	75.8	36	96	112	123	0	1	5	5	0.205	0.107	0.141	3.3	2.2	2.6
65～69歳	251	272	74.7	75.6	75.1	64	107	174	150	0	0	13	15	0.386	0.269	0.313	5.2	5.5	5.4
70～74歳	320	361	73.2	76.8	75.1	78	160	222	188	1	0	19	13	0.477	0.207	0.311	5.9	3.6	4.7
75～79歳	282	354	73.6	79.2	76.6	88	149	177	191	0	1	17	13	0.502	0.262	0.359	6.0	3.7	4.7
80歳以上	205	207	68.8	56.9	62.2	66	72	125	123	0	2	14	10	0.585	0.289	0.410	6.8	4.8	5.8
計	1,355	1,771	71.0	73.9	72.6	380	766	895	935	1	4	79	66	0.421	0.200	0.280	5.8	3.7	4.6
合計	3,126		72.6			1,146		1,830		5		145		0.280			4.6		

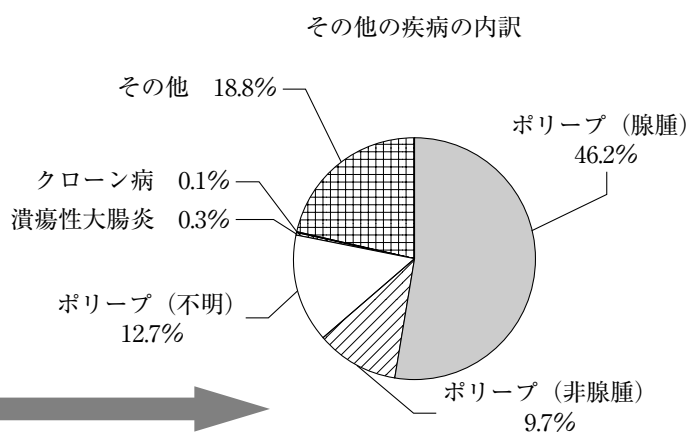
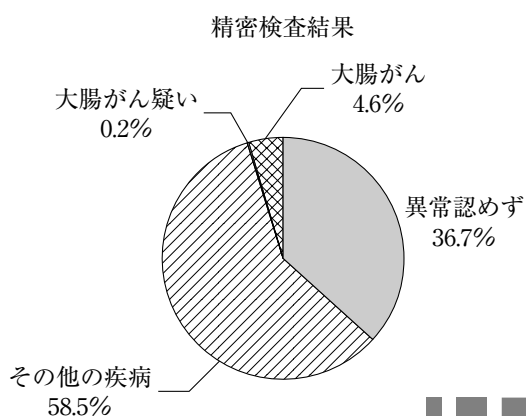
### 3) 検診機関別

#### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	7,409	12,115	588	655	6,821	11,460	7.9	5.4	6.4
ファルコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中国労働衛生協会	331	432	27	15	304	417	8.2	3.5	5.5
地域検診小計	7,740	12,547	615	670	7,125	11,877	7.9	5.3	6.3
病院	2,855	4,981	304	399	2,551	4,582	10.6	8.0	9.0
診療所	8,172	15,478	989	1,328	7,183	14,150	12.1	8.6	9.8
施設検診小計	11,027	20,459	1,293	1,727	9,734	18,732	11.7	8.4	9.6
計	18,767	33,006	1,908	2,397	16,859	30,609	10.2	7.3	8.3
合計	51,773		4,305		47,468		8.3		

#### b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	411	510	69.9	77.9	74.1	121	248	269	237	0	0	21	25	0.283	0.206	0.236	5.1	4.9	5.0
ファルコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中国労働衛生協会	21	12	77.8	80.0	78.6	8	7	13	4	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
地域検診小計	432	522	70.2	77.9	74.2	129	255	282	241	0	1	21	25	0.271	0.199	0.227	4.9	4.8	4.8
病院	210	287	69.1	71.9	70.7	54	125	144	151	1	1	11	10	0.385	0.201	0.268	5.2	3.5	4.2
診療所	713	962	72.1	72.4	72.3	197	386	469	543	0	2	47	31	0.575	0.200	0.330	6.6	3.2	4.7
施設検診小計	923	1,249	71.4	72.3	71.9	251	511	613	694	1	3	58	41	0.526	0.200	0.314	6.3	3.3	4.6
計	1,355	1,771	71.0	73.9	72.6	380	766	895	935	1	4	79	66	0.421	0.200	0.280	5.8	3.7	4.6
合計	3,126		72.6			1,146		1,830		5		145		0.280			4.6		



4) 平成19年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員																			
	地域検診		施設検診		計		受診率 (%)		地域検診		施設検診		計		要精検率 (%)		精 受診者数		精検受診 率 (%)		異 認めず		常 その		他 の疾		がん疑い		がん発見 率 (%)		陽性反応 適中度 (%)	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J														
鳥取市	54,000	2,523	12,966	15,489	28.7	160	985	1,145	7.4	839	300	489	2	48	539	0.310	5.7															
米子市	45,750	0	13,022	13,022	28.5	0	1,273	1,273	9.8	857	320	505	0	32	537	0.246	3.7															
倉吉市	12,233	1,515	796	2,311	18.9	99	114	213	9.2	149	65	76	1	7	84	0.303	4.7															
境港市	11,714	0	2,614	2,614	22.3	0	415	415	15.9	360	102	243	1	14	258	0.536	3.9															
岩美町	2,690	1,055	232	1,287	47.8	66	9	75	5.8	66	25	38	0	3	41	0.233	4.5															
八頭町	8,241	2,701	102	2,803	34.0	154	2	156	5.6	120	47	66	0	7	73	0.250	5.8															
若桜町	1,579	488	280	768	48.6	31	26	57	7.4	46	19	24	0	3	27	0.391	6.5															
智頭町	2,439	747	414	1,161	47.6	41	49	90	7.8	62	26	34	0	2	36	0.172	3.2															
湯梨浜町	3,521	1,182	204	1,386	39.4	74	29	103	7.4	79	28	47	0	4	51	0.289	5.1															
三朝町	1,414	774	0	774	54.7	35	0	35	4.5	21	5	14	0	2	16	0.258	9.5															
北栄町	5,246	2,116	205	2,321	44.2	142	40	182	7.8	119	55	62	0	2	64	0.086	1.7															
琴浦町	5,306	1,676	99	1,775	33.5	141	24	165	9.3	126	47	71	0	8	79	0.451	6.3															
南部町	2,495	567	511	1,078	43.2	37	52	89	8.3	59	17	39	0	3	42	0.278	5.1															
伯耆町	7,814	1,604	0	1,604	20.5	109	0	109	6.8	83	36	43	0	4	47	0.249	4.8															
日吉津村	1,570	324	0	324	20.6	22	0	22	6.8	13	3	10	0	0	10	0.000	0.0															
大山町	5,505	1,413	0	1,413	25.7	82	0	82	5.8	54	16	36	0	2	38	0.142	3.7															
日南町	1,471	443	0	443	30.1	27	0	27	6.1	22	7	12	0	3	15	0.677	13.6															
日野町	1,336	514	41	555	41.5	33	2	35	6.3	24	15	8	0	1	9	0.180	4.2															
江府町	1,043	645	0	645	61.8	32	0	32	5.0	27	13	13	1	0	14	0.000	0.0															
合計	175,367	20,287	31,486	51,773	29.5	1,285	3,020	4,305	8.3	3,126	1,146	1,830	5	145	1,980	0.280	4.6															
東部	68,949	7,514	13,994	21,508	31.2	452	1,071	1,523	7.1	1,133	417	651	2	63	716	0.293	5.6															
中部	27,720	7,263	1,304	8,567	30.9	491	207	698	8.1	494	200	270	1	23	294	0.268	4.7															
西部	78,698	5,510	16,188	21,698	27.6	342	1,742	2,084	9.6	1,499	529	909	2	59	970	0.272	3.9															

5) 1日2個法実施市町村の大腸がん検診実績

a. 平成15年度から導入した市町村 13市町村(東部:鳥取・岩美・八頭・若桜、中部:湯梨浜・三朝、西部:米子・境港・南部・日吉津・大山・日南・江府)

地 区	受診者数 (人) A	受診率 (%)	要精検者数 B	要精検率 (%) C = B/A	精検受診者数 D	精検受診率 (%) E = D/B	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) G = F/A	陽性反応 適中度(%) H = F/D
							異常認めず	その他の疾病	がん疑い	が ん F		
東 部 (4市町)	19,955	30.5	1,406	7.0	1,050	74.7	382	605	2	61	0.306	5.8
中 部 (2町)	1,657	47.5	94	5.7	70	74.5	23	42	0	5	0.302	7.1
西 部 (7市町村)	19,127	28.1	1,918	10.0	1,370	71.4	471	845	2	52	0.272	3.8
H19合計 (1日2個法)	40,739	29.8	3,418	8.4	2,490	72.8	876	1,492	4	118	0.290	4.7
H18合計 (1日2個法)	41,560	30.3	3,491	8.4	2,570	73.6	1,003	1,431	7	129	0.310	5.0
H17合計 (1日2個法)	41,347	29.6	3,655	8.8	2,536	69.4	946	1,469	6	115	0.278	4.5
H16合計 (1日2個法)	43,042	31.5	3,498	8.1	2,369	67.7	904	1,355	6	104	0.242	4.4
H15合計 (1日2個法)	44,104	31.5	4,222	9.6	2,762	65.4	1,154	1,481	7	120	0.272	4.3
H14合計 (2日法)	41,526	30.1	3,535	8.5	2,172	61.4	906	1,158	8	100	0.241	4.6

※1 旧市町村で平成15年度は2日法であったものは除いている。

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から「精検受診者数」を分母として算出

b. 平成16年度から導入した市町村 5町村(東部:旧佐治村・智頭町、中部:旧東郷町、西部:伯耆町、旧大山町)

地 区	受診者数 (人) A'	受診率 (%)	要精検者数 B'	要精検率 (%) C' = B'/A'	精検受診者数 D'	精検受診率 (%) E' = D'/B'	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) G' = F'/A'	陽性反応 適中度(%) H' = F'/D'
							異常認めず	その他の疾病	がん疑い	が ん F'		
東 部 (旧佐治、智頭)	1,553	42.8	117	7.5	83	70.9	35	46	0	2	0.129	2.4
中 部 (旧東郷)	503	34.7	44	8.7	30	68.2	10	19	0	1	0.199	3.3
西 部 (伯耆、旧大山)	2,016	21.4	131	6.5	105	80.2	43	56	0	6	0.298	5.7
H19合計 (1日2個法)	4,072	28.1	292	7.2	218	74.7	88	121	0	9	0.221	4.1
H18合計 (1日2個法)	3,905	27.6	264	6.8	198	75.0	80	109	1	8	0.205	4.0
H17合計 (1日2個法)	3,997	28.9	301	7.5	218	72.4	91	118	0	9	0.225	4.1
H16合計 (1日2個法)	4,107	44.1	277	6.7	192	69.3	84	102	1	5	0.122	2.6
H15合計 (2日法)	4,512	41.9	346	7.7	242	69.9	107	125	1	9	0.199	3.7
H14合計 (2日法)	4,463	38.1	318	7.1	212	66.7	80	126	1	5	0.112	2.4

c. 平成17年度から導入した市町村 3市町(東部:なし、中部:倉吉市・北栄町・琴浦町、西部:なし)

地 区	受診者数 (人) a	受診率 (%)	要精検者数 b	要精検率 (%) c = b/a	精検受診者数 d	精検受診率 (%) e = d/b	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) g = f/a	陽性反応 適中度(%) h = f/d
							異常認めず	その他の疾病	がん疑い	が ん f		
東 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 部 (3市町)	6,407	28.1	560	8.7	394	70.4	167	209	1	17	0.265	4.3
西 部 (0市町村)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H19合計 (1日2個法)	6,407	28.1	560	8.7	394	70.4	167	209	1	17	0.265	4.3
H18合計 (1日2個法)	6,076	25.0	466	7.7	326	70.0	133	174	0	19	0.313	5.8
H17合計 (1日2個法)	6,195	24.1	493	8.0	326	66.1	144	169	0	13	0.210	4.0
H16合計 (2日法)	6,528	23.5	540	8.3	370	68.5	149	207	1	13	0.199	3.5
H15合計 (2日法)	7,027	26.1	582	8.3	417	71.6	187	211	0	19	0.270	4.6
H14合計 (2日法)	6,789	25.8	505	7.4	353	69.9	159	174	3	17	0.250	4.8

d. 平成18年度から導入した市町村 1町（東部：なし、中部：なし、西部：日野町）

地 区	受診者数 (人) a'	受診率 (%)	要精検者数 b'	要精検率 (%) c' = b' / a'	精検受診者数 d'	精検受診率 (%) e' = d' / b'	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) g' = f' / a'	陽性反応 適中度(%) h' = f' / d'
							異常認めず	その他の疾病	がん疑い	が ん f'		
東 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西 部 (日野町)	555	41.5	35	6.3	24	68.6	15	8	0	1	0.180	4.2
H19合計 (1日2個法)	555	41.5	35	6.3	24	68.6	15	8	0	1	0.180	4.2
H18合計 (1日2個法)	485	45.3	23	4.7	14	60.9	5	8	1	0	0.000	0.0
H17合計 (2日法)	506	40.2	27	5.3	17	63.0	7	9	0	1	0.198	5.9
H16合計 (2日法)	493	21.2	37	7.5	24	64.9	15	8	0	1	0.203	4.2
H15合計 (2日法)	575	40.0	44	7.7	28	63.6	16	11	0	1	0.174	3.6
H14合計 (2日法)	558	40.6	47	8.4	30	63.8	10	16	0	4	0.717	13.3

(3) 平成19年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地 域 検 診				施 設 検 診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報 告 癌	16	19	12	47	49	5	49	103	65	24	61	150
確 定 癌	16	19	12	47	49	4	49	102	65	23	61	149
腺 腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1

表2 性及び年齢

年 齢	40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計	
地 域	男	0	0	2	3	0	4	6	4	2	21
	女	0	0	3	2	2	7	3	6	3	26
	計	0	0	5	5	2	11	9	10	5	47
施 設	男	1	0	2	3	5	8	18	12	12	61
	女	0	1	0	4	2	10	7	9	8	41
	計	1	1	2	7	7	18	25	21	20	102
計	男	1	0	4	6	5	12	24	16	14	82
	女	0	1	3	6	4	17	10	15	11	67
総 計	1	1	7	12	9	29	34	31	25	149	

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	1	4	3	8	10	2	13	25	33(22.1)
S	5	7	6	18	13	2	17	32	50(33.6)
D	1	1	0	2	2	0	2	4	6( 4.0)
T	3	2	0	5	5	0	5	10	15(10.1)
A	4	5	2	11	13	0	8	21	32(21.5)
C	2	0	1	3	5	0	4	9	12( 8.1)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	1	0	0	1	1( 0.7)
計	16	19	12	47	49	4	49	102	149

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域				施設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0~10	4	5	1	10	8	1	8	17	27(18.1)
11~20	8	4	4	16	14	0	14	28	44(29.5)
21~50	3	7	1	11	15	0	16	31	42(28.2)
51~	0	0	0	0	7	1	5	13	13( 8.7)
不明	1	3	6	10	5	2	6	13	23(15.4)
計	16	19	12	47	49	4	49	102	149

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	39	54	93(62.4)
1	1	4	5( 3.4)
2	6	34	40(26.8)
3	0	1	1( 0.7)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	1	9	10( 6.7)
計	47	102	149

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	9	20	29(31.2)
I sp	11	14	25(26.9)
I s	6	5	11(11.8)
II a	8	5	13(14.0)
II a + II c	2	6	8( 8.6)
II b	0	0	0
II c	2	2	4( 4.3)
III	0	0	0
その他	0	0	0
不明	1	2	3( 3.2)
計	39	54	93

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	9	11	10	23	1	21	75(50.3)
sm	6	1	2	7	1	5	22(14.8)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	15	12	12	30	2	26	97(65.1)
mp	1	2	0	6	0	6	15(10.1)
ss	0	4	0	9	1	11	25(16.8)
se	0	1	0	2	0	4	7( 4.7)
si	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	2	1	2	5( 3.4)
計	16	19	12	49	4	49	149

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	16	15	12	39	2	33	117(78.5)
B	0	2	0	3	0	8	13( 8.7)
C	0	2	0	5	1	6	14( 9.4)
D	0	0	0	1	0	2	3( 2.0)
不明	0	0	0	1	1	0	2( 1.3)
計	16	19	12	49	4	49	149

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	12	12	7	29	1	33	94(63.1)
Mod	3	7	4	16	2	15	47(31.5)
Por	0	0	0	1	0	0	1( 0.7)
Muc	1	0	0	1	0	0	2( 1.3)
その他	0	0	1	0	0	0	1( 0.7)
不明	0	0	0	2	1	1	4( 2.7)
計	16	19	12	49	4	49	149



表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	7	8	1	24	1	27	68(45.6)
内視鏡下手術	1	0	1	2	0	4	8( 5.4)
内視鏡治療	7	11	10	21	2	18	69(46.3)
その他不明	1	0	0	2	1	0	4( 2.7)
計	16	19	12	49	4	49	149

表11 平成19年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果				
												検診方式	便潜血	精密結果		
地域検診	中部	1	78	女性	直腸	36mm	mp	2	Mod	++	I	地域検診	-	-	-	
		2	77	男性	直腸	37mm	se(a2)	2	Mod	++	II	地域検診	-	-	-	
施設検診	東部	3	70	女性	S状結腸	24mm	mp	2	Mod	++	I	施設検診	-	-	-	
		4	84	男性	上行結腸	25mm	ss(a1)	2	Well	++	III b	施設検診	-	-	-	
		5	68	女性	S状結腸	30mm	mp	1	Mod	++	III a	施設検診	-	-	-	
		6	73	男性	横行結腸	20mm	mp	2	Muci	++	I	施設検診	-	-	-	
		7	67	女性	S状結腸	39mm	ss(a1)	2	Mod			II	施設検診	-	-	-
	西部	8	58	女性	盲腸	60mm	ss(a1)	2	Well	++	II	施設検診	-	-	-	
		9	72	女性	下行結腸	35mm	ss(a1)	2	Mod	+-	II	施設検診	+	-	+	異常なし
		10	73	女性	上行結腸	20mm	mp	2	Mod	++	I	施設検診	-	-	-	
		11	74	男性	直腸	35mm	ss(a1)	2	Mod	++	III a	施設検診	-	-	-	
		12	79	女性	下行結腸	45mm	ss(a1)	2	Mod	++	II	施設検診	+	-	+	精検未受診
		13	80	女性	横行結腸	50mm	se(a2)	2	Mod	++	III b	施設検診	-	-	-	
		14	86	男性	上行結腸	43mm	ss(a1)	2	Well	++	IV	施設検診	+	-	+	異常なし
		15	78	女性	上行結腸	17mm	mp	2	Mod	++	II	施設検診	+	-	+	腺腫性ポリープ

## 6. 肝 臓 が ん 検 診

### 1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）＋節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ＋未受診者）＋節目外（要指導者等）

### 2. 肝臓がん検診実績

#### 1) 平成19年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査

平成19年度は17市町村で実施し、対象者数71,197人のうち、受診者数は5,672人で受診率は8.0%であった。要精検者数はHBs抗原のみ陽性者104人、HCV抗体のみ陽性者36人の計140人、受診者数の2.47%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は1.8%、HCV抗体陽性率は0.6%であった。また、要精検者140人のうち精検受診者は90人、精検受診率は64.3%であった。精検受診者90人のうち、肝臓がん疑いが3人発見され、確定調査の結果2人は肝臓癌であった。

#### 2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は14市町村で実施された。結果は以下のとおりである。未実施の5町については、定期検査事業を取り組んで頂くよう引き続き要望を行っていくこととなった。

区 分	健康指導 対象者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,395	625	103 (16.5%)	11 (1.8%)	6 (1.0%)	3 (0.5%)
C型肝炎ウイルス陽性者	997	570	281 (49.3%)	36 (6.3%)	10 (1.8%)	8 (1.4%)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成19年度の13年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は107,375人、推計受診率は55.8%であり、そのうちHBs抗原陽性者は2,660人(2.48%)、HCV抗体陽性者は3,498人(3.26%)であった。

### 3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

平成7年度から平成19年度の肝臓がん検診発見がん患者の追跡調査では、確定がんは21人であった。また平成10年度から平成19年度の定期検査中に発見された確定がんは73人であった。

肝臓がん検診発見がん患者21人のうち、17人は死亡、生存中は4人であった。また、定期検査中に発見されたがん患者73人のうち、36人は死亡(他病死を含む)、生存中は37人であった。

(1) 平成19年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	一次検診 受診者数(人)		一 次 検 診 結 果						HBs抗原陽性率(%)			HCV抗体陽性率(%)		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性		HCV抗体 のみ陽性		d = b / a			e = c / a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	148	373	145	362	3	11	0	0	2.0	2.9	2.7	0.0	0.0	0.0
45～49歳	94	255	90	247	4	4	0	4	4.3	1.6	2.3	0.0	1.6	1.1
50～54歳	130	317	127	309	3	8	0	0	2.3	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0
55～59歳	233	486	226	472	6	13	1	1	2.6	2.7	2.6	0.4	0.2	0.3
60～64歳	418	612	403	603	12	8	3	1	2.9	1.3	1.9	0.7	0.2	0.4
65～69歳	455	693	446	677	7	9	2	7	1.5	1.3	1.4	0.4	1.0	0.8
70～74歳	544	788	533	769	4	11	7	8	0.7	1.4	1.1	1.3	1.0	1.1
75～79歳	36	48	36	47	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	1.2
80歳以上	24	18	23	17	1	0	0	1	4.2	0.0	2.4	0.0	5.6	2.4
計	2,082	3,590	2,029	3,503	40	64	13	23	1.9	1.8	1.8	0.6	0.6	0.6
合 計	5,672		5,532		104		36		1.8			0.6		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査者数		精密検査結果												肝臓がん発見率			
		受診者数		健康指導対象者						診断名						g = f / a			
		男	女	脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		男	女		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
無症候性キヤリア		アルコ		肝		肝臓がん		肝臓がん		肝臓がん		肝臓がん		肝臓がん					
40~44歳	B型陽性	2	6	1	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	2	6	1	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
45~49歳	B型陽性	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	3	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
50~54歳	B型陽性	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
55~59歳	B型陽性	5	9	2	7	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C型陽性	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	6	10	3	8	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
60~64歳	B型陽性	6	5	4	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	8	5	5	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
65~69歳	B型陽性	4	10	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	1	4	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	5	14	4	10	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
70~74歳	B型陽性	2	9	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	6	5	3	2	0	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	全体	8	14	5	9	0	2	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
75~79歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
80歳以上	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	B型陽性	22	43	16	34	0	2	4	5	0	0	1	0	0	0	0	0		
	C型陽性	10	15	5	7	0	0	3	6	0	1	0	0	0	0	0	0		
	全体	32	58	21	41	0	2	7	11	0	1	1	0	0	0	0	0		
合計	B型陽性	65	65	50	50	2	2	9	9	0	0	1	1	0	0	0	0		
	C型陽性	25	25	12	12	0	0	9	9	1	1	0	0	0	0	0	0		
	全体	90	90	62	62	2	2	18	18	1	1	1	1	0	0	0	0		

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

※2 がん発見率は、「がん」の者のみを計上。

### 3) 検診機関別

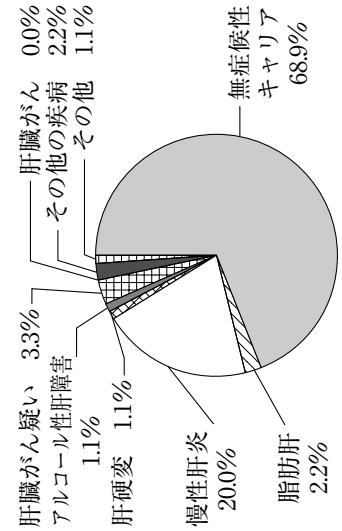
#### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数(人)		一 次 検 診 結 果						HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		d' = b' / a'			e' = c' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保 健 事 業 団	683	1,147	662	1,122	15	15	6	10	2.2	1.3	1.6	0.9	0.9	0.9
中国労働衛生協会	27	46	26	44	1	2	0	0	3.7	4.3	4.1	0.0	0.0	0.0
病 院	305	477	295	468	7	8	3	1	2.3	1.7	1.9	1.0	0.2	0.5
診 療 所	1,067	1,920	1,046	1,869	17	39	4	12	1.6	2.0	1.9	0.4	0.6	0.5
計	2,082	3,590	2,029	3,503	40	64	13	23	1.9	1.8	1.8	0.6	0.6	0.6
合 計	5,672		5,532		104		36		1.8			0.6		

b) 精密検査結果

一 次 検 診 機 関	区 分	精密検査者数		精密検査結果												肝臓がん 発見率(%) g' = f' / a'					
		精 密 検 査 者 数 (人)	無 症 候 性 キ ャ リ ア	健康指導対象者診断名						果						その 他					
				脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病							
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			男	女		
保 事 業 団 体	B型陽性	9	10	6	9	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	—	—
	C型陽性	4	6	2	2	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	全 体	13	16	8	11	0	0	4	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	—	—
中 国 労 働 衛 生 協 会	B型陽性	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	全 体	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
病 院	B型陽性	5	6	5	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	—	—
	C型陽性	3	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	—	—
	全 体	8	8	6	5	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	—	—
診 療 所	B型陽性	8	26	5	21	0	1	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	—	—
	C型陽性	3	7	2	4	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	—	—
	全 体	11	33	7	25	0	1	2	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	—	—
計	B型陽性	22	43	16	34	0	2	4	5	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	—	—
	C型陽性	10	15	5	7	0	0	3	6	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	—	—
	全 体	32	58	21	41	0	2	7	11	0	1	1	0	3	0	0	0	0	2	—	—
合 計	B型陽性	65	90	50	62	2	2	9	9	0	1	1	1	1	0	0	0	1	1	—	—
	C型陽性	25	35	12	17	0	0	9	9	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	—	—
	全 体	90	125	62	79	2	2	18	18	1	1	1	3	0	0	0	0	2	1	—	—

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



4) 平成19年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査実施状況  
 実施市町村数 = 17 未実施市町村数 = 2

市町村名	受診者数				陽性者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 (人)	集団検診 B	医療機関 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I = (F + H) / D	HCV抗 体陽性率 (%) J = (G + H) / D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L = K / (F + G + H)	無症候性 ギヤリア M	その他 の疾病 N	がん疑い O	が ん P	有所見者 Q = N + O + P	が ん 発 見 率 (%) R = P / D
鳥取市	36,484	320	2,471	2,791	7.6	50	20	0	1.8	0.7	50	71.4	37	10	3	0	13	0.000
米子市	1,904	0	110	110	5.8	4	0	0	3.6	0.0	1	25.0	1	0	0	0	0	0.000
倉吉市	8,208	709	0	709	8.6	6	7	0	0.8	1.0	10	76.9	6	4	0	0	4	0.000
境港市	5,478	0	376	376	6.9	5	1	0	1.3	0.3	6	100.0	4	2	0	0	2	0.000
岩美町	354	24	0	24	6.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
八頭町	2,001	194	0	194	9.7	4	3	0	2.1	1.5	4	57.1	2	2	0	0	2	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	458	2	29	31	6.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
湯梨浜町	7,967	29	208	237	3.0	3	2	0	1.3	0.8	5	100.0	3	2	0	0	2	0.000
三朝町	43	8	0	8	18.6	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	276	33	148	181	65.6	6	0	0	3.3	0.0	4	66.7	3	1	0	0	1	0.000
琴浦町	704	152	47	199	28.3	5	0	0	2.5	0.0	2	40.0	2	0	0	0	0	0.000
南部町	1,615	200	174	374	23.2	11	1	0	2.9	0.3	7	58.3	4	3	0	0	3	0.000
伯耆町	2,631	26	0	26	1.0	1	0	0	3.8	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	19	7	0	7	36.8	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	1,579	139	206	345	21.8	6	2	0	1.7	0.6	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1,336	1	0	1	0.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
江府町	140	59	0	59	42.1	3	0	0	5.1	0.0	1	33.3	0	1	0	0	1	0.000
合 計	71,197	1,903	3,769	5,672	8.0	104	36	0	1.8	0.6	90	64.3	62	25	3	0	28	0.000
東 部	39,297	540	2,500	3,040	7.7	54	23	0	1.8	0.8	54	70.1	39	12	3	0	15	0.000
中 部	17,198	931	403	1,334	7.8	20	9	0	1.5	0.7	21	72.4	14	7	0	0	7	0.000
西 部	14,702	432	866	1,298	8.8	30	4	0	2.3	0.3	15	44.1	9	6	0	0	6	0.000



(2) 平成7～19年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成19年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成19年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成20年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																	
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				結果				その他									
					脂肪肝	慢性肝炎	ア型肝炎	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	肝臓がん		その他								
												男	女	男	女	男	女					
40～44歳	14	19	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
45～49歳	26	56	6	19	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1				
50～54歳	51	87	18	35	1	2	3	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1				
55～59歳	62	126	16	55	2	3	4	7	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1				
60～64歳	78	150	26	69	0	2	4	12	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1				
65～69歳	85	134	40	75	0	1	8	14	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0				
70～74歳	96	128	48	70	0	2	10	11	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0				
75～79歳	49	88	28	50	1	0	4	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0				
80歳以上	51	95	28	37	0	1	5	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0				
計	512	883	213	412	5	12	41	62	2	9	3	0	1	2	3	0	2	6				
合計 (比率%)	1,395		625 (100)		17 (2.7)				103 (16.5)				11 (1.8)		3 (0.5)		6 (1.0)		2 (0.3)		11 (1.8)	

2) 平成19年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成19年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成20年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																	
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				結果				その他									
					脂肪肝	慢性肝炎	ア型肝炎	アルコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	肝臓がん		その他								
												男	女	男	女	男	女					
40～44歳	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
45～49歳	4	8	2	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
50～54歳	13	13	3	5	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
55～59歳	19	38	6	17	0	0	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1			
60～64歳	18	62	6	31	2	1	3	14	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2			
65～69歳	33	85	19	54	7	0	9	27	1	3	0	0	1	0	0	0	1	1	2			
70～74歳	66	154	48	103	16	1	25	56	3	2	0	0	0	1	1	1	1	1	1			
75～79歳	57	148	40	84	13	2	21	43	0	9	0	0	0	2	2	2	0	0	0			
80歳以上	97	178	55	93	20	0	29	35	4	11	0	0	0	3	2	1	0	0	1			
計	309	688	180	390	60	2	95	186	9	27	0	0	1	7	5	3	3	5	8			
合計 (比率%)	997		570 (100)		6 (1.1)				281 (49.3)				36 (6.3)		8 (1.4)		10 (1.8)		6 (1.1)		13 (2.3)	

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(3) 平成7～19年度年代別肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数(人)		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	a		陽性者数 b		陽性率(%) c = b/a			陽性者数 d		陽性率(%) e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,343	5,285	93	150	3.97	2.84	3.19	34	46	1.45	0.87	1.05
45～49歳	2,359	5,452	117	192	4.96	3.52	3.96	34	96	1.44	1.76	1.66
50～54歳	2,516	6,691	121	234	4.81	3.50	3.86	33	153	1.31	2.29	2.02
55～59歳	3,066	8,386	92	255	3.00	3.04	3.03	69	245	2.25	2.92	2.74
60～64歳	6,137	12,056	180	250	2.93	2.07	2.36	186	456	3.03	3.78	3.53
65～69歳	7,685	12,666	198	246	2.58	1.94	2.18	284	506	3.70	3.99	3.88
70～74歳	7,134	11,133	126	190	1.77	1.71	1.73	299	442	4.19	3.97	4.06
75～79歳	3,204	5,321	58	74	1.81	1.39	1.55	145	221	4.53	4.15	4.29
80歳以上	2,201	3,740	26	58	1.18	1.55	1.41	106	143	4.82	3.82	4.19
計	36,645	70,730	1,011	1,649	2.76	2.33	2.48	1,190	2,308	3.25	3.26	3.26
合計	107,375		2,660		2.48			3,498		3.26		

(4) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成19年度基本健康診査肝炎ウイルス検査より発見されたがんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ (mm)	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	40	男	癌なし								B	14.2
2	72	男	肝癌	切除		単発	右葉	100×100			C	22.3
3	60	男	肝癌	TAE	08. 3	> 4 個	両葉	40×40	腫瘤	有	C	594

2) 平成19年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ (mm)	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	80	男	肝癌	RFA	02. 9	単発	S8		腫瘤	有	C	2.4
2	63	女	肝癌	T/R		単発	S8	16×16			B	17.0
3	73	男	肝癌	M/R	03. 8. 5	> 4 個	S348	15×15		無	B	58.6
4	73	男	肝癌	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘤	有	B	289
5	74	男	肝癌	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘤	無	C	4.7
6	60	女	肝癌	RFA	07. 7	単発	S7	17×12	腫瘤	有	C	9.8
7	87	女	肝癌	未治療		単発	S6	66×56	腫瘤	無	C	2.8
8	80	女	肝癌								C	7.0
9	69	女	血管腫								B	3.2
10	46	女	血管腫								B	4.0
11	73	男	調査中								C	7.0
12	83	女	癌疑い								C	5.0
13	77	女	癌疑い								C	
14	77	女	癌なし								C	15.4
15	73	女	癌なし								C	3.6
16	84	女	癌なし								C	289.1
17	59	男	肝癌	18年度報告済							B	
18	67	女	肝癌	18年度報告済							B	
19	75	男	肝癌	18年度報告済							C	
20	59	女	肝癌	18年度報告済							B/C	
21	73	女	肝癌	18年度報告済							C	
22	75	女	肝癌	18年度報告済							C	
23	66	男	肝癌	18年度報告済							C	
24	81	男	肝癌	18年度報告済							C	
25	78	女	肝癌	18年度報告済							C	
26	79	男	肝癌	18年度報告済							C	

3) 平成7年度～平成18年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ (mm)	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8	単発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
5	59	男	TAE	98. 5	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		00. 7. 2			90×90			C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	13×13	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	15×15	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	10×10	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	37×31	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	20×20	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	40×40	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	30×30	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	35×35	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	20×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	50×50	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 2. 9	2個	S28	25×20	腫瘍	無	C	再発、4年2か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8		腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	NT		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	通院中断
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 1.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	無再発生存中
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	無再発生存中
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	3年10か月後再発
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	2年6か月後肝外転移疑
47	86	女	TAE	不明	不明	不明	20×20	不明	有	C	予後調査中
48	73	男	切除	00. 3.	単発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	無再発生存中
50	64	男	未治療		単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	生存中
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	生存中
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	10か月後再発
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	通院中断
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	2年後再発
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	無再発生存中
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	無再発生存中
61	68	男	未治療		単発	S6	13×13	腫瘍	無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	浸潤	有	C	無再発生存中
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	無再発生存中
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	不明	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	無	C	生存中
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	16×23	腫瘍	有	C	再発、生存中
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	無再発生存中
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	生存中
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	未治療		単発	S1	35×35		無	C	不明
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	不明

4) 平成7年度～平成18年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘤	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘤	無	C	死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘤	有	C	10年1か月後再発
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘤	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘤	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘤	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘤	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘤	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘤	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘤	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘤	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘤	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘤	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘤	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘤	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘤	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘤	有	C	3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘤	有	C	3年後再発
20	67	女				S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R		単発	S8	20×20	腫瘤	有	C	無再発生存中

## 7. 全国がん検診実績との比較

(単位:人 %)

区 分		平成19年度実績 (鳥取県)	平成19年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	171,530	36,119,051	(県) 受診者・がん発見 = 「X線」「内視鏡」の合計値
	受診者数(人)	44,272	4,262,048	要精検・精検受診 = 「X線」のみの数値
	受診率(%)	25.8	11.8	精検受診者 = 精検結果未把握の者を除く (以下同じ)
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,689	427,949	(国) 報告書記載の数値 (「X線」の数値)
	要精検率(%)	8.24	10.04	精検受診者 = 「要精検者 - 未受診者」により算定
	精検受診者数(人)	1,337	321,855(367,004)	
	精検受診率(%)	79.2	75.2(85.8)	
	がんの者(人)	166	6,548	(受診率順位) 報告書(概要)記載の数値による順位 (以下同じ)
	がん発見率(%)	0.37	0.15	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	130,796	31,114,941	(県) 「頸部」の数値 (「体部」は除く)
	受診者数(人)	24,450	3,538,132	(国) 「頸部のみ」の数値
	受診率(%)	(24.2) 18.7	(18.8)	隔年検診となったため受診率 ( ) は次により算定されている。
	受診率順位	(13) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	89	40,023	
	要精検率(%)	0.36	1.13	※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	78	24,153(31,054)	全国 $\frac{(3,320,265) + (3,538,132) - (1,008,788)}{(31,114,941)} = 18.8$
	精検受診率(%)	87.6	60.3(77.6)	
	がんの者(人)	5	1,921	鳥取 $\frac{(24,150) + (24,450) - (16,947)}{(130,796)} = 24.2$
	がん発見率(%)	0.02	0.05	
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	175,897	34,750,523	(県・国) 「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く)
	受診者数(人)	49,806	7,506,113	※国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診率(%)	28.3	21.6	
	受診率順位	21位	—	
	要精検者数(人)	1,940	211,154	
	要精検率(%)	3.90	2.81	
	精検受診者数(人)	1,656	149,121(180,978)	
	精検受診率(%)	85.4	70.6(85.7)	
	がんの者(人)	35	3,516	
	がん発見率(%)	0.07	0.05	

区 分		平成19年度実績 (鳥取県)	平成19年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	108,292	22,945,767	(県・国)「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上
	受診者数(人)	14,134	1,892,834	
	受診率(%)	(24.8) 13.1	(14.2)	隔年検診となったため受診率( )は次により算定されている。
	受診率順位	(7)位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	1,369	161,971	
	要精検率(%)	9.69	8.56	※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	1,275	128,877(146,299)	全国 $\frac{(1,631,811) + (1,892,834) - (266,346)}{(22,945,767)} = 12.9$
	精検受診率(%)	93.1	79.6(90.3)	
	がんの者(人)	59	5,190	鳥取 $\frac{(12,782) + (14,134) - (59)}{(108,292)} = 24.8$
	がん発見率(%)	0.42	0.27	
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	175,367	38,171,872	
	受診者数(人)	51,773	7,176,312	
	受診率(%)	29.5	18.8	
	受診率順位	3位	—	
	要精検者数(人)	4,305	521,753	
	要精検率(%)	8.32	7.27	
	精検受診者数(人)	3,126	287,324(396,856)	
	精検受診率(%)	72.6	55.1(76.1)	
	がんの者(人)	145	12,285	
	がん発見率(%)	0.28	0.17	

(出典) 鳥取県数値(受診率順位を除く) = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

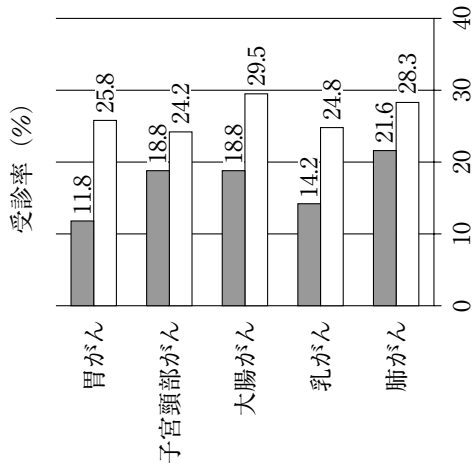
全国数値及び鳥取県の受診率順位 = 地域保健・老人保健事業報告(厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・老人報告事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

2 全国集計の精検受診者数、受診率の( )は、精検結果が未把握の者が含まれた数値です。

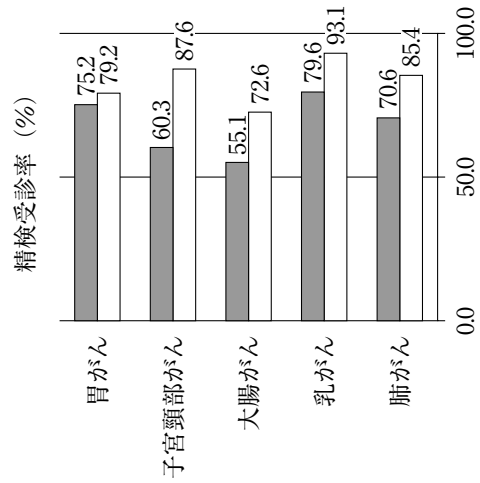
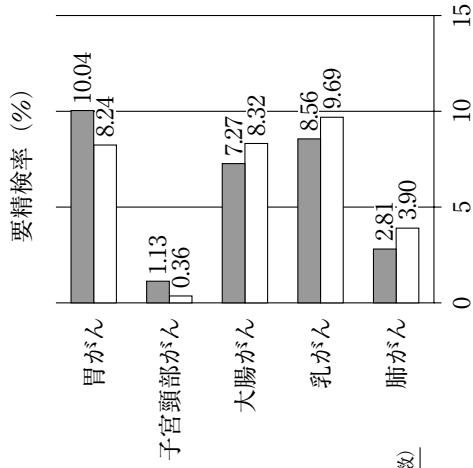
3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。

# 老人保健事業健康診査（平成19年度実績）

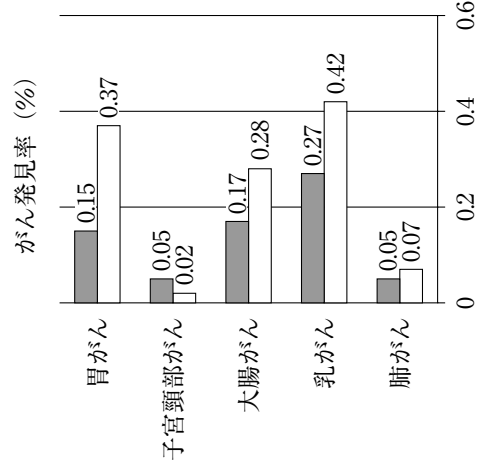


※子宮頸部がん、乳がん検診の受診率は次のとおり計算されている。

（前年度受診者数）+（当該年度受診者数）-（前年度及び当該年度2年連続受診者数）  
 当該年度の対象者数



※精検結果が未把握の者は含めません。





### Ⅲ. 平成20年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成20年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出席者	内	容
胃	がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成21年2月7日(土)	午後4時	午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ 「視聴覚ホール」	150名	演題：「胃癌の標準治療とは？—胃癌治療ガイドラインの最近の動向から—」 講師：癌研究会有明病院副院長 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 中部—1例：吉中胃腸科医院 西部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院	山口俊晴先生 福庭暢彦先生 吉中正人先生 藤瀬 幸先生 神戸 貴雅先生		
子宮がん	子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成21年2月8日(日)	午後2時30分	午後4時	米子市 西部医師会館	58名	演題：「検診の精度管理向上のため細胞診報告様式改定の実際」 講師：自治医科大学附属さいたま医療センター産科婦人科 症例提示6例	今野 良先生		
肺	がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成21年2月28日(土)	午後4時	午後6時20分	倉吉市 倉吉未来中心 「セミナールム3」	73名	演題：「肺癌診療におけるPET/CTの役割」 講師：兵庫県立がんセンター放射線科部長 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—3例：鳥大医 胸部外科	足立秀治先生 山下 裕先生 吹野俊介先生 中村廣繁先生		
乳	がん	乳がん検診従事者講習会及び第15回鳥取県乳がん検診発見乳がん症例検討会	平成20年8月23日(土)	午後4時	午後5時50分	倉吉市 中部医師会館	67名	演題：「当院における乳癌診療の現況」 講師：鳥根大学医学部附属病院乳腺内分泌外科科長 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：野島病院 西部—1例：米子医療センター	板倉正幸先生 西村謙吾先生 宇奈手一司先生 鈴木喜雅先生		
大腸	がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成20年8月9日(土)	午後4時	午後5時40分	鳥取市 鳥取県健康会館	102名	演題：「苦痛のない大腸内視鏡検査をめざして」 講師：鳥取赤十字病院第一内科部長 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：米子医療センター	田中久雄先生 清水辰宣先生 藤瀬 幸先生 木村 修先生		
大腸	がん	大腸がん精密検査実地研修会	平成20年10月18日(土)	午後4時	午後5時30分	鳥取市 鳥取県健康会館	62名	演題：「大腸内視鏡挿入方の基本—コロモンモデルを用いた実演を含めて—」 講師：福岡大学筑紫病院消化器科准教授	津田純郎先生		
肝臓	がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成21年2月14日(土)	午後4時	午後6時	倉吉市 倉吉未来中心 「セミナールム3」	106名	演題：「肝細胞癌の診断と治療」 講師：福山市民病院がん診療統括部長 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 中部—1例：鳥取県立厚生病院 西部—1例：山陰労災病院	坂口孝作先生 満田朱理先生 万代真理先生 西向栄治先生		

# 1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成21年2月7日(土) 午後4時～午後6時

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

## 〔東部症例〕

提出者：鳥取生協病院 福庭 暢彦

60歳代、男性

検診歴：平成17年、18年、19年、20年異常なし。

既往歴：平成18年 脳出血でA病院入院。以後脳出血後遺症、気分障害でB医療センター精神科通院開始。

現病歴：平成20年 6月初旬頃より腹部膨満感あり。

6月2日 胃癌検診。結果は異常なし。

6月14日 腹部症状強いため救急受診(当院初診)。胸腹部CTで肝に多発性腫瘍、リンパ節腫脹。同日入院。

6月17日 上部消化管内視鏡で前庭部から胃角部の小弯に5cm大の周堤を伴う潰瘍性病変あり。生検の結果、中分化腺癌であり、tubular adenocarcinoma、moderately differentiated type(tub<sub>2</sub>)、Type<sub>3</sub>、cT<sub>3</sub>、cN<sub>3</sub>、cM<sub>1</sub> stageIVと診断した。

6月24日 病名告知、化学療法勧めるも健康食品による治療を希望同日退院。

7月14日 再診予定であったが、7月7日当科受診。C病院への転院希望あり。紹介状作成。

7月25日 足腰が立たなくなったとのことでC病院受診。当院受診を勧められ同日当院救急受診。PS4であり緩和治療の方針となった。

7月30日 緩和病棟に転棟。

8月7日 永眠。

検 討：進行胃癌の見逃し例であった。平成19年以前の見直しでは前庭部から胃角部の小弯に有意な所見を指摘することができなかった。症状受診の2週間前に受けた平成20年検診の見直しでは第1斜位で充填像に近い撮影で同部位に壁硬化を認めていた。陥凹や隆起だけでなく壁の伸展についても細心の注意が必要だと再認識させられた症例であった。

## 〔中部症例〕

提出者：吉中胃腸科医院 吉中 正人

63歳、男性

検診歴：平成17年 異常なし

平成18年 異常なし

平成19年 胃壁外性圧排

経 過：内視鏡検査は胃体部前壁側に境界明瞭な健状粘膜に覆われた表面平滑な7cm大の腫瘍を認めた。鉗子による検索で移動性(-)充実性の腫瘍であり、粘膜下腫瘍と診断した。

CTは胃壁に連なり胃内腔に突出した腫瘍であり、軽度の造影効果を伴う低輝度性腫瘍として描出された、筋原性の粘膜下腫瘍と診断した。

EUS+EUS・FNAは第4層と連続する低エコー腫瘍として描出され、内部に高エコー領域が混在していた。

以上より、GISTと診断し胃局所切除術が行われた。

病理所見：7 cm×5 cm ルーペ像では腫瘍は粘膜下に存在し、組織学的に紡錘形細胞からなる腫瘍組織がみられた。免疫染色でC-kit(+) CD34(+)  
以上よりGIST悪性と診断された。

検 討：平成17年・平成18年集検フィルムで圧排様所見がみられ、次第に増大している。  
注意深い読影で存在診断は可能であったと思われる。しかし2重造影法が主体である新撮影法では、適切な造影がなされない限り、この様な大きな病変でも前壁病変の診断には限界があると考えられた。この症例の場合、腹臥位充層像があれば、平成17年の時点で質的診断も可能であったと考える。

#### [中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 藤 瀬 幸

70歳代、男性

検診歴：平成15年10月 異常なし

平成19年12月 fornix大彎隆起性病変

経 過：平成19年12月車検診で上記異常を指摘され、平成20年1月当科受診。上部消化管内視鏡検査にて体中部大彎に約3 cm大の立ち上がりの急峻な表面凹凸不整の隆起性病変を認めた。また、体中部小彎後壁よりに易出血性の境界明瞭で陥凹は比較的深く、内部に小さな顆粒を伴ったⅡc病変を認めた。両者ともに生検にてgroup Vであり、前者は内視鏡所見上深部浸潤が疑われ手術の方針となった。胃全摘術を施行され前者は1型40×35mm、tubular adenocarcinoma tub<sub>1</sub>>tub<sub>2</sub> mp ly+, v+, n<sub>0</sub>後者は、Ⅱc 20×8 mm tubular adenocarcinoma tub<sub>2</sub> sm ly-, v-, n<sub>0</sub>だった。

検 討：平成19年検診フィルムを病変がわかって見直すと体中部大彎側に立ち上がりの急峻な隆起性病変が認められ、同部の異常所見の指摘は可能であったかと思われた。

#### [西部症例]

山陰労災病院 神 戸 貴 雅

76歳、男性

検診歴：平成17年度 車検診にて異常無し

平成18年度 車検診にて異常無し

平成19年度 車検診にて胃前庭部大彎壁硬化、不整潰瘍指摘

経 過：平成19年9月、車検診にて上記を指摘され、当院紹介。精査の結果、前庭部大彎後壁の2型進行癌と診断、外科にて胃幽門側切除術施行。

(切除標本：2型、65×35mm、SS、tub<sub>2</sub>、ly<sub>2</sub>、v<sub>2</sub>、INFβ、N<sub>1</sub>、Stage II)

検 討：平成18年度のフィルムを遡及的に検討すると、前庭部前壁二重造影像で、十二指腸下行脚との重なるの部分にバリウム斑と僅かな壁不整を認めるものの、異常所見としての指摘は困難だったと考える。前庭部前壁二重造影撮影時に十二指腸と重なりが生じた場合は角度を変えて写真を追加するなどの工夫が必要と思われる。

## 2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成21年2月8日(日) 午後2時30分～午後4時

場 所 鳥取県西部医師会館

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科講師、板持広明先生の進行により6例(車検診4、施設検診2)の症例検討が行われた。

症例1. 57歳、車検診、毎年健診を受けている。前年まではclass IIであったが、前年の細胞診には上皮内がんと思われる細胞が出現しており、スクリーナー段階での見落としであった。微小浸潤がん。

症例2・3・4・6 25、27、29、26歳。初回検診。一例に高度異型上皮。  
若年者に異型上皮が増えてきている傾向がみられる。

症例5. 76歳、施設検診。以前に子宮頸部の手術を受けている。前年の細胞診はclass II。今回出血あり。子宮内細胞診を試みるも子宮頸管は狭窄しており、細胞採取が困難であった症例。結果はclass Vで子宮体部がんであった。細胞診の採取方法について考えさせられた症例である。

問題点と今後の課題

昨年も指摘したが、今年も細胞診の見落としがあった。ダブルチェック体制が必要ではないか。今後検討される課題である。

平成20年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	57歳	八頭町	H16.07.16	鳥取県保健事業団	class II	鳥取市立病院	Microinvasive Squamous cell carcinoma			鳥取市立病院
			H17.08.10	鳥取県保健事業団	class II					
			H18.06.01	鳥取県保健事業団	class II					
			H19.06.01	鳥取県保健事業団	class III a 腺異形成疑					
症例2	25歳	倉吉市	H19.12.09	鳥取県保健事業団	class III a mild dysplasia疑	打吹公園クリニック	mild dysplasia			打吹公園クリニック
症例3	27歳	八頭町	H19.07.18	鳥取県保健事業団	class III a Koilocytotic atypia疑	鳥取市立病院	mild dysplasia with koilocytotic atypia			鳥取市立病院
症例4	29歳	北栄町	H19.11.19	鳥取県保健事業団	class IV severe dysplasia疑	鳥取県立厚生病院	severe dysplasia			鳥取県立厚生病院
症例5	76歳	米子市	H18.07.28	母と子の長田産科婦人科クリニック	class II	鳥取大学医学部附属病院	endometrioid adenocarcinoma (子宮体部)	I c期		鳥取大学医学部附属病院
			H19.10.12	母と子の長田産科婦人科クリニック	class V cervical adenocarcinoma					
症例6	26歳	南部町	H19.08.09	母と子の長田産科婦人科クリニック	class III a koilocytotic atypia疑	母と子の長田産科婦人科クリニック	mild dysplasia			母と子の長田産科婦人科クリニック

### 3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成21年2月28日(土) 午後4時～午後6時20分

場 所 倉吉未来中心「セミナールーム3」

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

#### 〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 山下 裕

症 例：74歳、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙歴なし

現病歴及び経過：

平成20年度の肺がん検診で右上肺野の異常を指摘され来院。胸部CTにて左下葉S10に40×35mm大の腫瘤を認め、腫瘍に接する胸膜面にわずかに胸水を認める。CTガイド下生検では、腫瘍細胞はケラチン陽性、ビメンチン陽性で少材料では組織型判定困難な未分化癌と診断された。病期診断目的でのPET-CT検査では遠隔転移なし、肺門、縦隔リンパ節転移は陰性で、臨床病期はT<sub>2</sub>またはT<sub>4</sub>、N<sub>0</sub>、M<sub>0</sub> IBもしくはⅢB（胸水採取不能）と診断し手術を施行した。全面癒着を剥離後、胸腔内観察するに播種病変、胸水は認めず、腫瘍は横隔膜に固着しており、腫瘍浸潤と判断、左下葉切除（横隔膜合併切除）、ND2aリンパ節郭清を施行した。病理診断は、poorly diff. Adenocarcinomaで臓側胸膜浸潤はあるが、横隔膜への浸潤はなく、pT<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub> 病期 IBとなった。

考 察：平成20年度に鳥取市立病院で切除された原発性肺癌は32例で、何らかの検診で発見された症例は10例であった。検診発見癌10例はいずれも病理病期 I（A：9例、B：1例）であった。本邦では、検診の有効性を評価する際、最も信頼にたる無作為化比較試験はないが、有意に死亡率減少効果が認められる4つの症例対象研究があり、肺がん検診ガイドラインでは、「実施することを勧める」となっている。胸部XPによる肺がん検出感度は80%程度であり、読影限界は存在する。見逃しの最も大きな要因は既存の構造物との重なりと思われ、その平均サイズは16mm（6～38）とのデータがある。今回提示した症例は、切除標本で50mmと大型であるが、心陰影と重なり、診断後の再検討でも指摘困難で、読影限界例と思われる。

#### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹野 俊介

症 例：60歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：高血圧、大腸癌手術（52歳）

生活歴：たばこ指数 40本×32年

現病歴：平成17年の検診では異常を指摘されなかった。平成18年検診なし。平成19年の施設検診で異常を指摘されたが、放置していた。平成20年の検診で異常を指摘され、某病院を受診し、気管支鏡検査でclass 4、扁平上皮癌疑いで、当院紹介となった。自覚症状なし。

検査所見：血液、尿、一般生化学検査に異常なし。

腫瘍マーカー：CEA 2.1 SCC抗原：0.8 シフラ 0.7（すべて正常）

呼吸機能検査：FVC：3.02L（91.6%） FEV1.0：1.43L（47.4%）

#### 閉塞性肺機能障害

平成17年の胸部X線写真で右上肺野の線状陰影があるが、ここをすぐさま異常陰影E1とチェックするのはやや困難と思われた。しかし、平成19年の胸部X線写真では右肺癌を強く示唆する陰影に変化し、かつ異常も指摘されながら本人が放置していた。そして平成20年の陰影は3cmを越えて病期が1段階進んだ状態での手術となった。PET-CTが撮っており、腫瘍のSUV<sub>max</sub>は10以上と高く、肺癌で確定的であった。

CTでNo.1リンパ節が0.7cm大だが目立つ存在であったが、PETでの反応はなかった。c-T<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>で手術施行、右上葉切除術にND2aリンパ節郭清をおこなった。右S2に最大径3.5cmの腫瘍あり、s-T<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>、P<sub>1</sub>D<sub>0</sub>E<sub>0</sub>PM<sub>0</sub>(P<sub>0</sub>)。

病理診断は、M/D adenocarcinoma, papillary type、ly<sub>2</sub>、v<sub>0</sub>、n<sub>0</sub>p-t<sub>2</sub>N<sub>0</sub>M<sub>0</sub>、p<sub>0</sub>d<sub>0</sub>e<sub>0</sub>pm<sub>0</sub>8p<sub>0</sub>、p-1B期であった。術前のCTでのNo.1リンパ節への転移はなかった。今回はPETが正しかった。

術後経過良好で、1B期よりu-FT内服で経過観察している。

検討：平成19年の段階なら、腫瘍径3cm以下で1A期なので当院での5年生存率は78.8%（215例）、しかし、平成20年には3.2cmとなり1B期で5生率62.2%（147例）と約20%の差（p<0.01）が生じる。

まとめ：検診経年受診と、検診後の精密検査受診率の上昇が生存率向上に必須であると考え。また特別講演でのPETの縦隔リンパ節転移の診断の精度はまだ低いとのことであった。

#### 〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 中村 廣 繁

症 例：76歳、女性

主 訴：胸部異常陰影

現病歴：毎年検診を受けていたが、C判定のため精査を受けたことはなかった。平成20年6月、検診でE2判定となり、胸部CT検査を受け、肺がん疑いで当院を受診した。

臨床経過：胸部CTで右上葉S1に大きさ30mm、辺縁不整で内部に多数の気管支拡張を伴う結節影（①）、S2に大きさ35mm、辺縁不整で充実性の腫瘤影（②）を認めた。気管前にリンパ節腫大（③）を認めた。FDG-PET検査では①器質化肺炎（SUV値9.52）、②肺癌（SUV値2.14）、③転移リンパ節（SUV値10.22）と診断された。右肺上葉切除+リンパ節郭清を施行した。①は大きさ28×26×28mm、中分化型腺癌（Acinar type）、②は大きさ34×33×28mm、中分化型腺癌（Papillary type、15%にmicropapillary componentあり）③は②の転移で、最終的にpT<sub>2</sub>N<sub>2</sub>M<sub>0</sub>、病期ⅢAと診断された。

検討：検診写真を振り返ると①は平成15年から毎年認められ、一見変化はない。いわゆる“枯れた肺癌”と、呼称される発育速度の遅い肺癌であった。②は平成18年にわずかに認め、その後増大してきている。近年注目されるmicropapillary componentという悪性度の高い部分を含んでいた。反省点として、①は漫然とC判定とつけて安心していただけではないか？②はもっと早く指摘をできなかつたらどうか？ 比較読影が確実にできる症例であつただけに、今後の教訓とすべきである。

まとめ：検診で2種類の腺癌が発見され、それぞれの発育速度の違いを反映したPET所見であった。過去から一見変化のない陰影をC判定とし続けることにはリスクがある。



## 4. 乳がん検診症例研究会

日時 平成20年8月23日（土） 午後4時～午後5時50分

場所 鳥取県中部医師会館

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 西村 謙吾

症例1：触診上乳癌を強く疑った乳腺膿瘍の症例

48歳、女性

平成20年6月に左乳房腫瘍を自覚し近医受診、乳癌疑いにて当院に紹介となった。受診。視触診にて左A領域に境界不明瞭、可動性不良の硬い腫瘍を認めた。マンモグラフィー（MMG）で左MLOのU領域に集簇性の淡く不明瞭な石灰化を認め、カテゴリー3と診断、超音波検査では境界明瞭、内部均一な腫瘍にて、カテゴリー2と診断した。念のため細胞診を行ったが悪性所見なく慢性膿瘍の診断で経過観察中である。

症例2：触診上診断困難な微小乳癌症例

48歳、女性

平成18年11月の検診にてMMG異常を指摘され、当院受診。視触診に明らかな異常所見はなかった。MMGで左MLOのU領域に集簇性で多形性の石灰化を認め、カテゴリー4と診断した。超音波検査では腫瘍ははっきりしなかった。細胞診で比較的小型の（8 $\mu$ m程）異型細胞集塊を認めた。平成19年3月、局所麻酔下に左乳腺部分切除術を施行した。組織診断にて、ACD（Atypical cystic duct with mucocele-like tumor with atypical epithelium）の診断した。ACDは浸潤性乳癌の所見はなく、DCISとの鑑別において議論中の比較的可成りまれな組織型である。術後DCISの治療に準じて放射線療法を行い現在経過は良好である。

### 〔中部症例〕

提出者：野島病院 宇奈手 一司

良悪性の鑑別に迷った乳腺線維症の症例

症例：63歳、女性

平成20年4月25日乳がん検診を受け、マンモグラフィーにて石灰化病変（カテゴリー4）を指摘され、要精密検査となり、6月6日当科初診。両側乳房に腫瘍を触知せず、腋窩リンパ節触知しなかった。当院でのマンモグラフィーでも、右MLOにおいて、U領域に樹枝状の石灰化を集簇性に認め、カテゴリー4ないしは5と判定した。腫瘍陰影は認めなかった。超音波検査では、同部の石灰化をわずかに認めるのみで、腫瘍陰影は認めなかった。CT検査でも、同部の石灰化のみであり、腫瘍陰影は認めなかった。

癌の可能性が否定できないため、局所麻酔下に石灰化部分を一部生検した。病理組織診断では、乳腺線維症であった。

乳腺線維症は、腫瘍触知とともに多彩なマンモグラフィー像を呈する良性疾患である。今回は腫瘍触知を認めず、マンモグラフィーでも判断に迷う症例であった。総合的には針生検等、より低侵襲な検査が優先されても良かったと反省している。より多くの症例を経験し、的確な診断能力の向上に努めたい。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 鈴木 喜雅

検診発見乳癌の1例

症 例：42歳、女性

マンモグラフィー検診にて異常を指摘され要精査となった。マンモグラフィーでは左乳房U領域に構築の乱れを認めカテゴリー4と診断した。超音波検査にて左乳房AC領域に5×6mmの腫瘤を認め、周囲乳腺の引き込み像が確認された。穿刺吸引細胞診にて陽性、乳頭腺管癌と診断された。CT、MRI検査にて乳管内進展なく、遠隔転移のない乳癌と診断し手術を行った。手術は左乳腺部分切除+腋窩リンパ節郭清を行った。術後病理診断にて非浸潤性乳管癌と診断された。術後補助治療として放射線治療50Gyおよびホルモン内分  
泌治療を行っている。

## 5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成20年8月9日(土) 午後4時～午後5時40分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 清 水 辰 宣

症 例：70歳、男性

現病歴：平成19年に大腸癌検診を受けて、便潜血陽性であったが、放置していた。今年5月になって、下痢症状が出現し心配になって当院受診。大腸内視鏡検査を施行し、S状結腸に病変を認めた。内視鏡所見：S状結腸に、0-I+IIc型の中央が陥凹した2cmの上皮性腫瘍を認めた。陥凹部は、拡大観察でVi高度異型度～VN型のピットパターンを呈し、sm高度浸潤癌を疑い、手術を試行した。

病理診断：SC、0-I s+ II c、23×10mm、sm高度浸潤（浸潤距離3000 $\mu$ m以上）

tub1>tub2、pap 腺腫成分を含む、INF $\beta$ 、ly<sub>2</sub>v<sub>0</sub>、N<sub>0</sub>、H<sub>0</sub> Stage I

検 討：検診便潜血(+)を放置され、約半年後に有症状で受診された。内視鏡では病変部は、正面にはっきり観察できるが、注腸検査では描出がやや困難であった。拡大内視鏡や、超音波内視鏡検査は、深達度の診断に極めて有用であった。

### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 藤 瀬 幸

症 例：55歳、男性

現病歴：平成18年大腸がん検診で便潜血陽性を指摘されるも放置。平成19年9月大腸がん検診で便潜血陽性を再度指摘され、11月7日当科初診。

検査所見：下部消化管内視鏡検査にて、直腸Rbに中心に白苔を有する深い潰瘍を伴った約1/3週の2型腫瘍を認めた。病変からの生検にて高分化腺癌の診断であった。

注腸造影検査でも、同部に台形状変形を呈した、立ち上がりの急峻な中心部に陥凹を伴った潰瘍を有する約1/3週の2型腫瘍として描出された。

病理所見：腹会陰式直腸切断術を施行された。直腸、2型、38×33mm高分化腺癌A、ly(-)、V(+)、N<sub>0</sub>、M<sub>0</sub>、stage II

検 討：前年度も便潜血陽性を指摘されていたが放置していた症例であった。下部消化管内視鏡検査の苦痛を懸念してのことだったようだが、今後我々はなるべく苦痛の少ない検査を施行できるよう心がけ下部消化管内視鏡検査をより多くの患者さんに受けてもらえるようにすることが重要であると考えられた。それが、早期発見、早期治療につながると再認識させられた症例であった。

### 〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 木 村 修

症 例：80歳、男性

主 訴：便秘

家族歴：特記するものなし

既往歴：平成19年5月 膀胱癌にて経尿道的切除術

現病歴：平成19年10月 便潜血(-)

平成20年1月頃より、急に便秘となり、肛門部痛(+)、頻便となる。

近医を受診、大腸内視鏡検査、生検、注腸造影を施行されたが直腸の広範な狭窄を認めるものの診断困難にて当科紹介となった。

直腸指診にて肛門狭窄、肛門周囲浸潤が認められ、CTにて直腸の著明な壁肥厚が認められた。

CA19-9：2806U/ml、CEA：1.9ng/ml

手術所見：平成20年3月 開腹術を施行するに、直腸に巨大な腫瘤を認め、直腸周囲、後腹膜、膀胱周囲、恥骨周囲への浸潤が著明であった。

また、骨盤内リンパ節への転移も高度であった。肝転移、腹膜転移、肺転移は認められなかった。これらの所見から、切除不能と判断し、横行結腸人工肛門を造設して手術を終了した。

術後経過：骨盤部への放射線治療(42Gy)、TS-1 80mg/日の投与を施行し、CA19-9：17.2U/ml(8月)と低下、肛門部痛は消失している。

検 討：切除不能の4型直腸癌であったが、便潜血陰性、生検陰性であり、今後、このような4型直腸癌の存在も考慮し、早期発見に努めて頂きたい。

## 6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成21年2月14日(土) 午後4時～午後6時

場 所 倉吉未来中心

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱理

症 例：77歳、男性

主 訴：無し

家族歴：母；胃癌、姉；腎臓癌

生活歴：機会飲酒（月に2～3回）、喫煙なし

既往歴：特記すべきことなし

現 症：胸腹部特記すべきことなし

現病歴：人間ドックにて肝障害（AST 50IU/l、ALT 80IU/l、 $\gamma$ -GTP 124IU/l）および糖尿病を指摘され、平成17年10月13日当科初診。脂肪肝を認め、食事・運動療法にてフォロー中であつた（この間トランスアミナーゼは40台IU/l、 $\gamma$ -GTPは60～80台IU/lを推移）。翌年も9月25日人間ドックを受診し、腹部超音波検査にてS4に3cm大の肝腫瘍を指摘される。その後のダイナミックCTにて肝細胞癌が疑われ精査目的に11月27日入院となる。

入院時検査所見：WBC 6200/ $\mu$ l、Hb 14.8g/dl、Plt 17.8万/ $\mu$ l、T.bil 1.0mg/dl、D.bil 0.2mg/dl、AST 25IU/l、ALT 36IU/l、LDH 190IU/l、ALP 238IU/l、 $\gamma$ -GTP 53IU/l、TP 7.2g/dl、Alb 4.4g/dl、ChE 313IU/l、T.Chol 158mg/dl、ZTT 7.2KU、PT 98%、ICG-R 1511%、HBsAg(-)、HCVAb(-)、抗核抗体(-)、抗DNA抗体(-)、AFP 12ng/ml、PIVKA II 208mAU/ml

経 過：腹部血管造影検査では肝動脈A4領域に腫瘍血管増生、腫瘍濃染を認めた。肝S4の腫瘍はCTHAで濃染し、CTAPで門脈血流欠損を示し、肝細胞癌と診断した。単発であり、肝障害度A、Child-PughAと肝予備能良好にて平成18年12月4日肝S4部分切除術が施行された。

手術所見(初回)：H1、St-M、2.6cm、Eg、Fc(+)、Fc-Inf(-)、Sf(+)、S<sub>0</sub>、N<sub>0</sub>、Vp<sub>0</sub>、Vv<sub>0</sub>、Va<sub>0</sub>、B<sub>0</sub>、P<sub>0</sub>、SM(-)、CH T<sub>2</sub> N<sub>0</sub> M<sub>0</sub> stage II

背景肝はCH、F2-3、A2であり肝腫瘍組織は高分化型肝細胞癌であつたが、組織多彩性を示した。

術後経過：経過順調なため12月21日退院となり、平成19年1月より再び内科フォローとなる。その後AFP、PIVKA IIともに正常であつたが、平成20年2月28日の検査でPIVKA II 42mAU/mlと軽度上昇を認めた（AFPは5ng/mlと正常）。4月10日のダイナミックCTでは断端再発を認めた。術後のため腹部超音波では病変detectできず、造影効果が軽微なことよりTAE、RFAは不能と判断した。肝予備能は前回と同様問題なく、non-B・non-Cのこともあり、再手術を治療法として選択した。よって平成20年8月1日拡大左葉切除を行った（初回手術から1年8ヶ月後）。

手術所見(2回目)：Hs、St-M、2.6cm、Eg、Fc(+)、Fc-Inf(+)、Sf(+)、S<sub>1</sub>、N<sub>0</sub>、Vp<sub>1</sub>、Vv<sub>1</sub>、Va<sub>0</sub>、B<sub>0</sub>、IM<sub>0</sub>、P<sub>0</sub>、SM(-)、CH T<sub>2</sub> N<sub>0</sub> M<sub>0</sub> stage II

背景肝はCH、F1、A1であり、肝腫瘍組織は中分化型肝細胞癌であつた。

その後経過：現在まで再発を認めていない。

考 察：HBsAg陽性者およびHCV抗体陽性者のみの対象の肝臓検診では見逃される症例がある。  
non-B・non-Cであっても何らかの肝障害を認めている場合は肝硬変の有無にかかわらず  
肝臓の画像による定期検査が必要と考える。またAFP正常の肝細胞癌（PIVKA IIのみ上  
昇あるいはPIVKA II正常）があることに留意すべきである。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 万代真理

症 例：67歳、男性

主 訴：心窩部痛

現病歴：2008年11月下旬より心窩部痛の出現を認め、12月1日精査目的に受診となる。腹部超音波  
検査で、肝左葉に53mm大の腫瘤と肝門部のリンパ節腫大を認め、加療目的に入院となった。

入院時現症：体温37.3度、身長173cm、体重80kg、BMI 27。結膜貧血黄染を認めず。

腹部では、心窩部に圧痛をみとめ、右季肋部に肝1横指触知した。

既往歴：糖尿病、高血圧、高脂血症にて内服加療中。45才時に、急性肝炎で入院歴があるが、原因  
については不明であった。

生活歴：飲酒・喫煙ともなし。

検査所見：WBC 22450/ $\mu$ l、RBC 532万/ $\mu$ l、Hb 13.1g/dl、PT 80.3%、T.Bil 0.5mg/dl、Alb 4.0g/  
dl、AST 17IU/L、ALT 18IU/L、ALP 364IU/L、 $\gamma$ -GTP 75IU/L、FBS 122mg/dl、  
HbA1c 9.4%、CRP 14.9mg/dl、HBsAg/Ab -/-、HBcAb-、HCVAb-、AFP 10KIU/ml、  
PIVKA-II 252mAU/ml、CEA 2.8mg/dl、CA19-9 6.6mg/dl

入院後経過：腹部超音波検査では、肝左葉に約50mm大の腫瘤を認め、内部には液体貯留を疑うよう  
なlow echoic areaは認めなかった。腹部dynamicCTでは、腫瘤は辺縁のみが造影され、  
いわゆるリング状濃染を示し、腫瘤の周囲実質にも造影効果を認めた。肝膿瘍の可能性が  
否定できず、ドレナージを試みたが、液体成分の排液はなく実質性の腫瘤であることが判  
明し、腫瘍生検を施行した。病理組織ではサイトケラチン、EMA、Ber-EP4のいずれも  
陽性であったが、HEP、CEA、CA19-9、ビメンチン、 $\alpha$ 平滑筋アクチンはいずれも陰性  
であった。HE染色では低分化な肝細胞癌または胆管細胞癌、またはその両者の合併が疑  
われるとの結果であった。アイエーコール、ファルモルピシン、マイトマイシンにてTAI  
を施行したところ、PIVKA-IIの低下を認めたため、化学療法に感受性があると判断し、  
FP療法による全身化学療法を開始した。

考 察：受診時、発熱および炎症反応の高値を認め、画像上も肝膿瘍を否定しきれない所見であり、  
ドレナージを行うか判断に苦慮した。文献的には、無治療肝臓に発熱を伴うことは稀であ  
るが、低分化型や腫瘍内壊死を伴う症例では発熱を合併することもあると報告されており、  
術後の病理学的検討では、腫瘍内の壊死巣や拡張した肝内胆管に膿瘍形成していたと報告  
されている。本症例では抗生剤の全身投与により炎症所見は改善しており、腫瘍内に感染  
を来した病態であったと考えられた。また、本腫瘍は肝細胞系・胆管細胞系いずれの免疫  
染色陰性であり、通常未分化癌に分類される腫瘤であった。しかし、HE染色では細胞の  
形質から低分化な肝細胞癌あるいは胆管細胞癌を疑う所見との結果であり、確定診断には  
至らなかったが、両者が併存し予後が最も不良である混合型肝臓を想定して治療法を検討  
した。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

肝機能正常のHBVキャリアーに発症したHCCの1例

山陰労災病院

消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、今本 龍、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦、

川崎寛中

放射線科 井隼孝司

症 例：69歳、男性

主 訴：B型肝炎ウイルス陽性の精査

既往歴：生来健康。

家族歴：8年前、妻が急性B型劇症肝炎となったが、感染経路が不明であった。その後、母親がHBsAg陽性と判明し、母子感染と判明した。

生活歴：酒2合×30年、ビール1.5本×20年、喫煙なし。

現病歴：肝炎検診でB型肝炎ウイルス陽性を指摘され、平成18年11月に受診した。

初診時検査成績：肝機能は正常であった。

HBVウイルスマーカーは、HBs抗原(+)

HBc抗体(+) $36.3\%$  (x200)、e抗原(-)、e抗体(+)、HBV DNA (TMA) $<3.7$  LGE/ml。

腹部超音波画像：慢性肝炎パターン。

肝発癌の可能性が否定できないため、半年毎の定期的な超音波検査を勧め、本人も自発的に定期通院された。肝機能は正常を維持していたが、約2年後、腹部超音波検査で、肝S5に $\phi$ 12mm大のSOLを発見された。この時、腫瘍マーカーはAFP 4ng/ml、PIVKA II 9 ng/mlと陰性であった。HBVDNA定量(リアルタイムPCR)は、1.8未満Logコピー/mlでウイルス量は極めて少ないままであった。造影肝CTで造影効果が少ない早期HCCと診断し、肝血管造影上、HCCは指摘できなかったが、門脈CT(CTAP)アンギオCT(CTA)で、肝S5に径1.5cm大の腫瘍を認め、ソナゾイド造影US診で高分化型のHCCと診断した。治療として、肝ラジオ波焼灼療法(RFA)(cool-tip先端2cm 8min)を選択し行った。

考 察：B型とC型の発ガンの違いについて、同じウイルス性肝炎を背景にしているB型とC型では癌の発症の仕方に違いがある。一般に、B型肝炎ウイルス感染では、肝線維化があまり進んでいない時期から、肝線維化が進んで肝硬変の状態になった時期まで、肝病態のどの時期からでも発がんが起こる可能性が存在する。それはB型肝炎ウイルスがDNAウイルスであり、ウイルスDNAが肝細胞のDNAに組み込まれるため遺伝子の変異が起こりやすいからと考えられているからである。一方、C型肝炎ウイルスはRNAウイルスで遺伝子への組み込みは起こらないとされる。しかし、C型肝炎ウイルスに感染すると、肝臓では慢性的な炎症が続き、細胞の壊死と再生がくり返され、炎症細胞から放出されるフリーラジカルなどが遺伝子を傷つけ、細胞の増殖はがんの進展を促進する。C型肝炎の場合、この持続的な炎症に伴う慢性肝炎から肝硬変への連続的な進展に伴い、発がんの危険性が高まる可能性が高いとされ、発がんの頻度は肝線維化の程度に比例していると言われている。

本例は、肝機能が正常で炎症のない、e抗体陽性のセロコンバージョン後の、血中ウイルスが消えかかったB型肝炎healthy carrierであった。しかし、肝炎ウイルスが組み込まれて、肝臓癌が出

来る可能性が否定できないことを患者、医師ともが認識し、本人の自発的な定期超音波受診の結果、早期発見、適切な治療につなげるが事ができたと考えた。また、患者家族のウイルスの有無を調べ、それを肝臓早期発見につなげられる可能性もあると考え報告した。



## 7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	13	26	436	7	16	203	25	4,020	622	45	4,062	1,261
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	4	13	51	12	38	128	6	17	102	22	68	281
乳 がん	2	15	65	1	3	23	1	4	32	4	22	120
大腸がん	7	10	235	1	4	34	26	119	688	34	133	957
肝臓がん	2	5	65	4	12	95	4	12	64	10	29	224
合 計	28回			25回			62回			115回		

## Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、がん検診の有効性向上のため、精度管理上、各がん検診精密検査医療機関登録の登録基準について、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が次のとおり改正され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857—27—5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

### 記

#### 1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

#### 2. 次回の更新時期

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
肺がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
乳がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
大腸がん検診精密検査 (注腸X線)	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H19. 4. 1～H22. 3. 31	H21年度中	H19. 4. 1～H22. 3. 31
肺がん一次検診	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	
乳がん一次検診	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31

## 鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

## 鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

## 鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成20年度より適用）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
  - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
  - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
  - (3) 日本肺がん学会総会 5点
  - (4) 肺がん検診セミナー 5点
  - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東・中・西部 各1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

## 鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。  
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。  
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。  
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

## 鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。  
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。  
なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

## 鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### (別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点



## 鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

## 鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV—RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
  - (1) 走査方式は、電子コンベックス方式が可能であること。
  - (2) プロブは、128素子以上の高密度多素子プロブであること。
  - (3) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
  - (4) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
  - (5) 観察用モニターは、9インチ以上であること。

\*上記基準に合致しなくても本委員会が承認した装置であればよい。（承認装置は別紙を参照）
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。  
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記） 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点

（高根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

## 鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
  - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。  
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
  - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
  - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
  - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

## あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、成人病検診管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第15報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 吉 中 正 人